大日本蠶絲會報

第八拾六號

明治三十二年八月

目次

◉論説

●桑の高刈に就て　練木喜三

●蠶絲業の聲　丹羽敬太郎

●乾繭小言　丹羽敬太郎

◉寄書

●ムカデ蔟の製法に就て　横田長太郎

●夏秋蠶の得失に就て　中澤作次郎

●殺蛹に就て　長崎誠夫

●蠶具消毒の急務及有效消毒法　三宅馬吉郎

●共同蠶種購求の必要　庄司恒之進

●養蠶と家庭教育　磯部龍次

◉問答

●桑樹の件に就き質問竝答●蠶補の件に就き質問竝答●蠶卵の圓み方に就き質問竝答●蠶蟀の脱皮に就き質問竝答●濕氣と鹽分とに就き質問竝答●病蠶に就き質問竝答●燻烟消毒に就き質問竝答●消毒法に就き質問竝答●消毒蠶室に就き質問竝答●上簇蠶に就き質問竝答

◉統計

●六月中生絲類及絹物類輸出入前年對照表

◉外報

●世界蠶業の大勢(承前)●佛伊兩國養蠶景況●伊國養蠶狀況●佛伊兩國養蠶景況續報●杭州附近夏蠶景況●清國蠶業改良に關する廳諭

◉雜報

●技藝委員囑託●島根支會設立●蠶業講習所人工養蠶成蹟●京都蠶業講習所傳習生募集●東京蠶業講習所卒業證書授與式●本年度の蠶絲業費●蠶絲に關する參考品の陳列●新潟縣自家用蠶種檢查●氷上郡蠶業學校の廢止●羽前の北進社●蠶業講習生の勉强●東海五縣聯合共進會●奈良縣繭絲外二品の品評會●北沼田地方の繭商人●神戸生絲檢査所月報●高知縣産出の生絲に就て●生絲包紙の改良●諏訪の製絲業●昨年度の輸出生絲●七月中生絲及屑物の集散●生絲入荷の豫想●歐米向生絲の需要●露國へ輸出生絲の好望●越後生絲需用地の變更●綾羽二重注文の拒絶●人事彙報●敍任辭令

●大日本蠶絲會職員

（明治三十二年八月一日現員）

●幹事長　岡毅

●幹事（專任）
農學士　練木喜三
農學士　高橋信貞
農學士　紫藤章
農學士　本多岩次郎

●評議員
農學士　芳賀權四郎
農學士　針塚長太郎
農學士　高橋本重兵衛
農學士　辻鴨太郎
農學士　中村牢左衛門
農學士　浦瀉貫太郎
農學士　松田菊次郎
農學士　永島昌德
農學士　立元太郎
農學士　足野卿
農學士　毛呂正容
農學士　鈴木武太郎
農學士　渡繁胤
農學士　石丹羽敬太郎
農學士　本多岩次郎

農學士　小畑岩次郎
農學士　大島正義
農學士　河原次郎
農學士　高木三郎
農學士　角田喜右作
農學士　練木喜三
農學士　紫藤章
農學士　下田伊左衛門

●技藝委員
農學士　石渡繁胤
農學士　芳賀權四郎
農學士　岡本金一郎
農學士　河原次郎
農學士　辻鴨太郎
農學士　月田藤三郎
農學士　圓中文助
農學士　足立元太郎
農學士　紫藤章
農學士　呂正容
農學士　毛鈴木武太郎
農學士　針塚長太郎
農學士　丹羽敬太郎
農學士　外山龜太郎
農學士　池慶正
農學士　浦部吉太郎

農學士　宮野村彥太郎
農學士　大原忠正
農學士　森順造
農學士　伊藤小左衛門
農學士　伊藤精一
農學士　市川延次郎
農學士　今西直次郎
農學士　八田達也
農學士　橋本重兵衛
農學士　堀正太郎
農學士　本多岩次郎
農學士　星野長次郎
農學士　菅野平右衛門
農學士　金子孫左衛門
農學士　群馬縣　塔玉縣　神奈川縣　浦本重太郎
農學士　橋部重兵衛
農學士　波多野鶴吉
農學士　東京府　同京都府　下田伊左衛門
農學士　中村半左衛門
農學士　高山武十郎
農學士　川村彥三郎
農學士　千葉縣　同　山梨縣　長野縣　小野元兵衛
農學士　降旗元太郎
農學士　福島縣　藤本善右衛門
農學士　同　淺野德三郎
農學士　山形縣　金子孫左衛門
農學士　山口縣　中村正路
農學士　宮崎縣　熊木勝衛
農學士　山本祐安
農學士　桃井興五右衛門
農學士　下田伊左衛門
農學士　芝山直清
農學士　三吉米熊
農學士　澤野淳
農學士　齋藤孝

理學博士　佐々木忠二郎
理學博士　藤本善右衛門
理學博士　松永町田菊伍次郎
理學博士　中村喜泰鼎三
理學博士　練木土屋三郎
理學博士　高橋信貞
理學博士　高田原休之丞
理學博士　横井時敬
理學博士　菅野平右衛門
理學博士　金子孫左衛門

●地方委員
東京府　中村半左衛門
同京都府　下田伊左衛門
神奈川縣　波多野鶴吉
埼玉縣　浦部重太郎
群馬縣　角田喜右作
千葉縣　高山武十郎
山梨縣　川村彥三郎
長野縣　小野元兵衛
福島縣　降旗元太郎
同　藤本善右衛門
山形縣　淺野德三郎
山口縣　金子孫左衛門
宮崎縣　中村正路
熊本縣　木勝衛
山本祐安

◎論說

●桑の高刈に就て

大日本蠶絲會技藝委員　練木喜三

遠き慮りなければ必ず近き憂ひあり蛙の行列は深く吾人の戒むべき所吾人は將來桑園の收利の益々多からんことを希ふと雖も而かも變り易きは世の習ひ蒼海變じて桑田となる大勢或は他日地方により却て其不利を嘆ずるの日なきを保せざるを思はざるべからず

觀よ近くは客歲の出來事を無殘にも沃若繁茂せる桑樹をすら掘倒して米麥を耕せるものあるにあらずやこれ固より新場地方の出來事にして彼の一時の變調たる米麥の暴騰に眩惑せるものゝ妄舉たるに過きずと雖も而かも既往は將來の鏡他日また決してこの事なきを保せずよしこの事あるもこれ一種の人々の妄舉たるに過ぎざる中は尙可なり趨勢或は地方により眞實今の所謂桑園なるものゝ比較的不利を感ずるの日また絕無を保せざるなり積塵山をなし蟻穴堤を破ぶる況や桑は斯業の根本なるをや桑の增減は直ちに以て斯業の消長を致す根本衰へて枝葉の盛んなるものは未だこれあらざるなり般鑑遠からず佛國現にこの事あり前車の覆るは後車の戒め決して彼岸の火災にあらず而して桑の高刈は豫めこの不幸を防ぐに於て轉ぼぬ前の杖濕れぬ前の傘たるを信ずるなり早生桑は兎に角中生桑と晩生桑とは成るべく土地の狀況の許す限り漸を以て高刈に改め成るべく不用の地もしくは他作をなして不利なる地に植えて力めて生産の地を增加すべし

早生桑はこれを要すること比較的少量にして且發芽の早きを尙ぶものなれば屋敷まはりか又は成るべく

手近の地に植えて在來の仕立かたに從ふも可なり或は生墻仕立にして却て利あればなり

根刈は收葉に便にして鐵鉋蟲の害を受くること尠きも如何せん彼の忌はしき萎縮病に罹ること多く且彼の恐るべき霜害を被むることまた少からずして耕耘便ならずその下葉は泥土の爲に穢れ易くその枝條は雪融の爲に傷み易きの虞あるを中刈は收葉至便耕耘稍や便にして下葉穢れず雪傷少きも萎縮病を發し霜害を被むること多きに加ふるに鐵鉋蟲の害を受くることまた尠からず

曾て生産の地たりしか否らざるも他作をなして利あるの地は比較上或は他日桑園の不利を感ずるの日のあるべきは前述客歳の出來事に照して免かれざる所なるべけれなり

然れども凡そ物に利害の伴ふは數の免かれざる所一利あれば隨て一害あり一得あればまた一失なき能はず高刈またこの數を免かれず收葉稍や不便にして鐵鉋蟲の害の多きは即ちその失とする所なり千里の馬は蹉嚙の失あり棟梁の材錯節の疵なき能はず徒らにその失のみをこれ惡んでその得を思はざるは恰も燒んことを恐れて火を廢し溺るゝを惡んで井を塞ぐに同じ得もしその失を補ふて餘あらば則ち可なり況や高刈はこれを根刈に比するもはた中刈に較するもその得却て多きを觀るをや

今その高刈の得とする所を揭ぐれば即ち萎縮病を發すること極めて少くして霜害を被むることまた少く耕耘至便にして下葉の穢るゝ患なきは勿論何地に栽培するも雪傷の虞なし尙その得失を以て根刈と中刈とに比すれば即ち左の如し

	高刈		中刈		根刈	
收葉の便否	不便	失	至便	得	便	得
耕耘の便否	至便	得	稍便	得	不便	失
萎縮病の多少	極稀れ	得	多し	失	多し	失
霜害の多少	少し	得	多し	失	多し	失
鐵鉋蟲の害の多少	多し	失	多し	失	少し	得
葉穢れの有無	なし	得	なし	得	あり	失
雪傷の有無	なし	得	少し	得	あり	失

當に知るべし得失果して熟れに多きやを高刈の得多くして失少きは一目瞭然ならん語に曰く天の欲する所をなさずして天の欲せざる所を爲せば則ち天また且人の欲する所を爲さずして人の欲せざる所を爲すとそれ桑は喬木なり成長限りなく蓊然繁茂し年に一回その葉の黃落するは彼が天性なり中途にして枝葉の刈採に會ふが如きは既にその欲せざる所或はこれを根刈にし或は之を中刈にすまたこれ齊しくその欲せざる所を爲すなり彼また人の欲せざる所を爲す素より當然決して怪むに足らざるなり高刈またその天性に戻る所なきにあらざるもこれを前二者に比すれば頗る相近きものあり隨て繁茂久しきに亘りて衰へず加ふるに霜害の少きはその最も得とする所況や高刈はまたその葉の水分比較的少きを以て之を蠶に與へて飼育し易くまた桑壽久しきを保つを以て從てその絲質に及ぼす關係良好なるの得ありこれ彼の大間々志津川等高樹仕立地方の絲の古來機業者間に嘖々たるものその好例にあらずや且その一失たる鐵鉋蟲の害の如きは豫め天牛の驅除を嚴にしもし既にその寄生を受けたるものあるも百鄙根を潰して穴に詰むれば容易にこれを殺すことを得るをや加之高刈はまた點々間作にして利あり

故に曰く中生桑と晩生桑とは成るべく土地の狀況の許す限り漸を以て高刈に改むべしと殊に現在萎縮病を憂ふるものは斷然速かにこの高刈を決行して可なり庶幾くは以てこの憂ひを再びするなきを得ん霜害を患ふる地方また成るべくこの高刈に改むるの得策たるべきを確認す斯くてその耕地には成るべく不用の地もしくは他作をなして不利なる地を利用したちんには他日如何なる時運の到來するも決して桑園の不利を嘆ずるの日なかるべく隨て斯業の利益は萬々歳たるを得べしもしそれその仕立かたに至りては自ら得失なき能はず後日期に臨んで復び大方の高評を請ふ所あらん

●蠶絲業の聲

大日本蠶絲會技藝委員　丹羽敬太郎

古より其聲大にして且清きものは能く一世を風靡し功業を後昆に垂るゝことを得るなり稷、契、皐陶の有虞氏に於ける孔丘、孟軻の周に於ける司馬選、斑固の漢に於ける陶潛の晉に於ける謝靈運の六朝に於ける李、杜、韓、柳の唐に於ける歐陽修、司馬光、三蘇、王介甫の宋に於ける高青邱、唐伯虎の明に於けるシーザー、シセロの羅馬に於けるプラトーの希臘に於けるルーソーの佛國に於けるビット、スペンサーの英國に於けるワシントン、フランクリンの米國に於ける象山、東湖、南洲、松陰の我維新前に於ける是皆其聲大にして且清きものなり故に能く一世を風靡し功業を後昆に垂ることを得たるものなり

近頃我產業界を視るに水產調査會の水產に於ける鹽業調査會の製鹽に於ける馬匹調査會の馬種に於ける其響の清濁と其功業の後世に傳はるとは否やと暫く措き其聲の大にして爲に一時を風靡し官民をして齊く意を該業の改良增殖に傾注せしめたるの形跡あるは予輩の確認する所なり

然るに我蠶絲業に至ては去る明治十八年農商務省は蠶絲業組合準則なるものを發布し各地の當業者をして組合及中央部なるものを設けしめ官民一致以て斯業の改良增殖を圖らんとせしに豈測らんや其聲小にして其響濁り遂に社會公衆をして是を顧みるものなきに卒れり是實に予輩が千古の恨事にして今に至るまで思て玆に迫べば血涙の襟を沾すを覺えざるなり

今や炎威已に去り早凉將に來らんとし氣爽に天高きの時に當り農商務省は全國中屈指の蠶絲當業者を招集し蠶絲業諮問會なるものを開かんとす該會員たるもの宜く挺身して以て天下に呼號すべきの秋なり

若し夫其聲小にして其響濁らば社會公衆の是を顧る者なかるべしと雖も苟も其聲にして大其響にして清からんには社會公衆咸是を謹聽し大に是が翼贊を力め斯業改良增殖の大基礎を定め其功業をして千歲不滅磐崖の石に刻することを得るに至らしめん

詩に曰く鶴九皐に鳴て聲天に聞ゆと琴呼會員諸氏群雀喧噪に但ず清聲一聲能く九天九地に徹底せしめんことを是予輩が蠶絲業諮問會員諸氏に切望して已まざる所なり

●乾繭小言

大日本蠶絲會技藝委員　丹羽敬太郎

殺蛹乾繭の不完全は養蠶家にありては其成品の價格を貶し製絲家に在りては其原料の品位を傷ひ營業豫算に少なからざる變動を與ふるものなり曩に本報第七拾九號に掲載せし乾燥裝置即ち余が東京工業學校教授壹藤孝氏と共に設計せるものは其結果在來のものに比し稍異なるものあるを以て該裝置に就き如何に繭が乾燥され得る乎將た如何に其結果が繰絲上に影響する乎を簡敘せんとす

繭は元來繭層と蛹との二物より成立し繭層は其水分百分の六乃至七を保有すと雖も其繰絲に適するには百分の二乃至三に止むるを以て良しとす之に反し蛹は其水分百分の七十内外の多量を有するを以て乾燥の目的は全く之に向て用ひらるゝなり而して蛹の乾燥全たからざる時は黴菌を生じ又其定限を超過する時は繭層を焦がす今左に三十一年度秋蠶白龍に就き時間に依て其乾燥の順序を檢定せるものあるを以て玆に之を抄出すべし

用繭は秋蠶白龍にして上簇より五日目のものを用ひ温度は華氏二百二十度を持續し其目的の工程を終はるを待て繭を切開し繭層と蛹とを別々に秤量したり

號數	日標	順數	乾燥時間	生繭層量	乾燥後量目	同上減量	同上歩合	乾燥蛹量	同上繭層量
第一號	陸	一〇	五分	二、九	二、八五	〇、一五	〇、一七二四	二、五〇	三五
第二號	十分	一〇	十分	三、〇	二、七〇	〇、三〇	一、〇〇〇〇	二、三五	三五
第三號		一〇	十五分	二、九	二、四五	〇、四五	一、五五一七	二、一五	三〇
第四號		一〇	三十分	二、九	二、四五	〇、五〇	一、七二四一	二、一〇	三〇
第五號		一〇	一時間	二、九	一、八〇	一、一〇	三、七九三一	一、四五	三五

第六號	一〇	一時間分	三、〇	一、三〇	一、七〇	五、六六六六	一、〇〇	、三〇
第七號	一〇	二時間	三、〇	一、一五	一、八五	六、一六六六	、八五	、三〇
第八號	一〇	二時間分	三、〇	、九九	二、〇一	六、七〇〇〇	、七〇	、二九
第九號	一〇	三時間	三、〇	、八九	二、一一	七、〇三三三	、六〇	、二九

其序を逐て行く事如斯而して第五號一時間乾燥のものゝ繭層の重量却て三十分のものより多きは蛹躰の水分放散此時より旺盛になりたるを以て繭層は一時其水分を飽和せしにあらざるなき平次に繭層焦燒の程度を試驗せるものを掲げ參考に資せん該試驗繭赤秋繭にして繭を切開し繭層と蛹とを別ちたるものと然らざるものとの兩者を探り比較を行へり

目標	種類	生繭一升の量	同粒數	生繭層量	同上蛹量	乾燥後量	乾燥減量	同減歩合	乾繭層量	蛹量	繭層減量	同上減量歩合
華氏二百二十度四時十分	普通繭（繭層と蛹とを別ちたるもの）	一〇三、八	二九、八	三、二	九、〇	三三、〇	七〇、八	六八、八	三三、二	二、八	〇、三	〇、三四
	普通繭（繭層と蛹とを別ちたるもの）	一〇〇、〇	二九、八	一、八	三、七	三三、七	六六、三	六六、〇	三三、〇	二、八	〇、三	—
華氏二百度三時四十分	普通繭	一〇〇、〇	二九、五	一、八	八、七	三三、〇	六六、〇	六七、七	三三、〇	二、三	〇、三	—

而して二百二十度四時十分のものは普通繭に於ても乾燥稍〻過强に失し繭色を害したるもの三四顆を見たり蛹と繭層とを區別したるものに至りては其變色著しく全體赤褐色を帶び殆ど繰絲に堪へざるものゝ如し二百度三時四十分のものは普通繭は色澤良好にして毫も異狀なしと雖も蛹と繭層とを區別したるものは繭層全躰に變色し繰絲の際解舒の困難品位の不良を示したり然れども其繭層減量の歩合實に〇割二分四厘に過ぎず

要するに繭の乾燥は其生繭を乾燥室内に挿入れたる際は華氏二百二三十度の高温を以て換氣を怠慢なら

しめ盛に繭中の水分を放散せしめ其本乾燥に近くや稍〻温度を低下し換氣を怠るべからず若し此時換氣に障害起らん平繭の水分は殆ど放散し悉くせるを以て繭層は直ちに變色し救ふべからざる災害を被るべし次に從來世人が夏秋蠶繭を乾燥するに於ては到底生繭當時の如く解舒容易に色澤鮮美に絲量夥多なるを得ずと唱道せしに客秋余が實驗せる成績に據れば之に正反せるものあるを以て下に表出せん

秋蠶風穴種生繭及乾燥繭比較製絲試驗表（其一）

種別	目標	温の温度	製絲時間	煮繭	歩合	繰絲中	繰絲量
生繭	煮繭	繰絲	煮繭	繰絲	合計	煮繭個數	歩合個數	一分間小枠回轉速度	繰絲切斷	一時間繰絲量
華氏二百度三時間乾燥	二〇〇	一三〇	七	一、五〇	一、五三	二	八	四〇〇	三	四、七七
	二〇〇	一四〇		一、二三	一、二九	二	六	四〇〇	〇	五、八八

（其二）

種別	目標	原繭一升に對する								生繰に對する歩合	
		顆數	生繭量	乾繭量	乾繭量	同歩合	生繰量	同歩合	生皮苧量	蛹褐量	層物合計量	生皮苧	蛹褐	層物合計
生繭 華氏二百廿度三時間乾燥	繭	三四九	一〇〇、〇	—	—	—	八、八	〇、八	一、八	一、八	一、八	三、一	四、〇
		三四二	一〇一、八	六六、八	—	—	八、七	〇、四	一、八	一、八	一、八	三、一	四、〇

（其三）

種別	目標	色澤	繰絲の數	繰糸		強度		伸度		四百回に對する類節	
				平均	最太	最細	細太差	平均	最強	最弱	平均	最長	最短	百分率	大類	小類
生繭 華氏二百二十度三時間乾燥	繭	良	五六	一、八〇	一、八八	一、八〇	一、八	四、八	四、〇	三、〇	一〇、〇	一〇、〇	一〇	三	九	一八
	繭	良	五六	二、八〇	二、二	二、〇	一、八	四、六	四、〇	三、〇	一〇、〇	一〇、〇	一〇	八	三	一〇

以上の成績に徴するに時間の經濟絲量の增加屑物及類節の減少は乾燥繭に於て最も特筆すべきものにして其他精細に視來れば纖度の差と伸度の長とは稍〻生繭に劣れるものありと雖も餘は悉く生繭を凌駕するに足るものなり

余が去秋公務を帶び武州本庄地方へ出張せる際該地製絲家の言へるには當地に蒐集する秋蠶繭は年々其價十萬圓を下らずと雖も其之を購入し殺蛹乾燥を行ひたるものは解舒非常に濫雜にして絲量非常に減少し以て生絲の原料に供する時は常に損失を免れずと故に試みに其一二を檢するに優に一升に對し九匁以上の其絲を繰製し得るものなるも一旦殺蛹乾燥の方法を過ちたるを以て其色澤を傷ひ解舒を害し之を繰絲するる其報酬は勞力を償ふ能はざるに至れり於茲吾人は我蠶業界を最も毒するものは殺蛹乾燥の不完全にして最も益するものは亦之が完備に外ならずと云爾

寄書

ムカデ簇の製法に就て

在西ヶ原蠶業講習所
大日本蠶絲會員　横田長太郎

編者曰く本會報第八拾參號に掲載せし横田長太郎氏の蠶種保護及上簇乾繭に就てと題する篇中ムカデ簇の件に就き其製法を質問せらるゝものあるにより氏に其調査を需めしに左の一篇を寄せられたれば茲に掲げて當業者參考の資に供す

ムカデ簇は器械を用ひずして製造する法數種あり又畫き坐繰器械を用ひて製造するときは甚だ簡便なるものなり今左に其概要を示す宜し實驗して其爲し易きを採用すべし

（甲）古き坐繰器械を用ひて製造するには其小歯車の心棒の前頭に鉤狀の釘を打ち豫め準備せる繩の一端を之に懸け而して一人は其坐繰器を回轉し一人は此繩の前端より五六寸を隔てたる箇所を開きて一本を製造するに適當せる丈けの切藁を挿み左手に繩の後方を緩く持ち右手にて繩の車と共に回轉するに從て切藁を適宜に排列しつゝ漸次後端に及ぶべし排列し終りて其手を緩むるときは繩は自ら鉤狀の釘より離るゝなり

而して多數を製造せんと欲せば數個の坐繰器を并べ調革又は其他の方法に依りて之を連接せば車の回轉を司る者一人にして數人同時に之を製することを得べし

但繩及切藁は豫め多數に準備し置くを要す即ち繩は蠶籠の長さより凡一尺二三寸程長く切り其兩端を結び置くべし而して切藁は蠶籠の長さに相當せる丈けに挿むなり繩の兩端五六寸づゝを剩すは使用の際蠶籠の縁に結び附くるの便あるを以てなり其綯ひ方亦叮重にして殊に藁の纖き足し目は細太の差なく且左右の捻藁を交錯せしめざるを要す若し然らざるときは製造中或は切斷し或は切藁を排列するに差支ふることあるものなり

切藁となすべき原料は可成能く其莖鞘を去り適宜の長に切りたる後は紛亂せざる樣相當の太さなる箱に納れ置き使用に供すべし

此法に據り製造せるものは繩を要すること少なく切藁の排列意に從ふて加減し得べく且つ繩の兩端を籠縁に結び附くるを得るが故に簇の取扱ひ其他總ての操作上甚だ便利にして他簇に對する長所の一なりとす

（乙）手にて製造する法數種あり其一二を掲げて參考に供すべし

（一）高さ五六尺の處に曲り釘を打て繩の中央を之に掛け其左右を同じ長さに垂下して各強く之を捻りたる後下端を合せて之に重もりを付し豫め用意せる切藁を挿みて下端を離し繩の捻の環ると同時に之を上方に向て適宜に排列するときは二本の繩は互に合して一本となり且つ切藁を挿むべし

（二）高き天井より一本の麻繩を垂下して強く之を捻りたる後簇の製造に供すべき繩を其下端に結び附け適宜の箇所に切藁を挿み上方より之を排列しつゝ麻繩の捻を返す

（三）先づ繩の一半を強く捻りて之を地平に置き其上に切藁を排列し更に他の一半を強く捻り前の一半と平行して切藁を挿み後念に折り曲げたる一端を離して其捻を還すときは兩半の繩合して一本となり同時に切藁を挿むべし

右何れも多少の熟練を要するものなれば宜しく實驗を積みて其手加減を工夫すべし此族は營繭上に於て佳良なれども貯藏に困難なるの缺點ありと云ふ説もあれば序に其貯藏法を附記すべし

前法に據り製造したる後挿みたる切藁を折らざる樣靜に倒して之を平列せしめ繩の一端より捲き他端にて之を括るべし然るときは恰も切藁を細にて括りたるが如き狀となりて多くの場所を要せず安全に貯ふることを得べし而して使用の際に臨まば之を解き其兩端を持して捻りを懸け其儘籠の緣に結び附くるなり此際若し挿みたる切藁に高低を生ぜば平面の小板を以て之を打ち平らにすべし

◉夏秋蠶の得失に就て

群馬縣勢多郡荒砥村
大日本蠶絲會員　中澤伴次郎

今や本邦生絲は輸出品中第一位を占有し其產額は年一年と增加して尙沿々停止する所を知らず此の時に當り蠶業の改良增殖を謀るの急務なることは論を要せずして明なり而して改良增殖は單に春蠶即ち一化蠶のみに吸々として夏秋蠶を顧みずして可ならんか否大に考慮を要すべき問題なりとす抑も夏秋蠶の利害得失に就ては早く既に我蠶業界をして諸説紛々定りなく或る論者は之れが失害を論じ之が絕滅論を主張し又或る論者は之が得益を論陳し夏秋蠶の利は一化蠶即ち春蠶に勝ること莫大なりと唱導し二化蠶の擴張を企圖し爲に我養蠶家は其の利害得失を判するに苦しみ進退去就殆ど決するに迷ひ宛も五里霧中に彷徨するの感あり然りと雖も一得一失は數の免れざる所なれば今夏秋蠶の利とする所を列擧して讀者諸君對照の勞を煩す

第一　夏秋蠶の時期は滔々たる桑園鬱然として繁茂し美觀を呈するあるも晩秋降霜の期に至れば落葉離散して泥土に歸するなり斯の如く空しく落葉せしむるの桑葉を以て初秋に於て蠶兒の飼育に利用し得らるゝの益あるのみならず其の收穫も亦多量なるの得益あり

第二　春蠶期中は農業の最も繁忙の期に際會し恰も麥の收穫、稻の挿秧等に遭遇し又茶の產地に在りては其製造に從事するを以て相共に充分の目的を達することを得ず然るに夏秋蠶の時期は幸に之を避け得るを以て此等の地方は農民の餘力をして更に使用することを得るの便あり

第三　二化蠶は一化蠶に比較して其飼育日數短かくして結果を奏することを得べし

第四　凡そ人の勞力には制限あるものにして一時に過度の勞働を爲し一時に多量の收穫を得るは難し然るに二化蠶即ち夏秋蠶を飼育するときは一年間に多額の收穫を得ると易し且つ春蠶にありては專業と副業とに關せず資本の運轉遲緩なり然るに二化蠶を飼育せば其運轉を速かならしむるの便益あり

第五　一化蠶即ち春蠶の時期は霜害多きゆへ桑園中霜害を被ふること多く爲に地方に由りては桑樹をして充分の發育を得せしめざること間〻あり然りと雖も二化蠶に專用の桑園を仕立つるときは全く此害を免かるゝを以て其の益する所大なり加之蛆害の憂ひ少し

第六　春蠶を飼育するには薪炭多量を要すれども二化蠶即ち夏秋蠶にありては之を要すること少なし

第七　二化蠶の特性たる纖維細くして光澤の善良なるは工業の發達と機織の進步すると共に將來廣く賞用せらるべし

◉殺蛹に就て

奈良縣吉川郡清水村
大日本蠶絲會員　長崎藏夫

蠶絲業の進步發達は時に進み日に改まるの盛運に達し隨て之に對する學理技術器具等發明研究する所少しとせず然るに蠶業は其利益甚だ多からず故に之に要する器具の如きも經濟上最も有利有益と認むるものを撰まざるべからず爰に於て余が多年聊か配慮しつゝありて今春始めて考案實驗し好成蹟を得たる殺蛹乾燥に就て其由來構造方法等を陳述せん讀者晉く忍耐あらんことを

余は明治二十六年養蠶業に從事し其得たる繭を燥殺し直に製絲に着手するも製絲中青黴を生じ絲の光澤を損し且つ解舒を惡からしむるに至りしを以て之を安全に貯藏するの方法を探究せし中豫て習ひ得たる渡紙袋に貯藏し見るに稍〻其害を免るゝを得たりしと雖も乾燥不充分なる爲か復た多少の黴害を免れざりし此際偶然心附しは壺中に貯へありし干大根の梅雨後毫も黴害を受けざりし事なり因て爾後酒壺の中に貯藏せしに其害を被ふることなし乾燥法は在來小仕掛の殺蛹器にて數回乾燥し其未だ冷へざるを詰込みしなり（是は稻藁穀類等を日光に曝し其熱の未だ冷却せざるとき藏め置くときは良く乾燥するの理を應用せり）此の如くなし來りしが本年一月本會報第七拾九號に於て丹羽敬太郎氏の殺蛹及乾燥に就てと云ふを讀むに及んで大に感ずる所ありしも其殺蛹器の圖解複雜にして充分解するに苦みしが間もなく同氏本縣に出張せらるゝに因り充分了解するを得たり然れども其殺蛹器たる完全なる代りに費用多額を要

して其同事業の未だ行はれざる今日に於ては小養蠶家及農家の餘業として養蠶をなすものゝ如きは到底望み得べからず故に余は之を折衷應用して成るべく小資本を投じ成るべく完全に造らんと企圖しつゝありしが遂に一の殺蛹器を製したり此殺蛹器は殆ど繭一石位を殺蛹し得るものにして其高さ七尺幅三尺奥行四尺とし三方及天井は厚き土壁にて造り前方は開戸となし中央に寒暖計を掛め以て温度の昇降を知る分の圓筒を地平面より爐邊の中央に向ひて下向に適じ以て火氣を盛ならしめ且つ新氣の流入を便ならしむるの用に供し爐中には炭火を起し火蓋を被ひ火氣の直に上昇せざる様になす此火蓋は薄葉鐵製にして上面幅一尺五寸長さ二尺五寸位下端は廣く開放し四面は斜となれり此斜面に無數の小孔を穿ち是より火氣を四壁に向て放射せしむ室内には棚を設け其段階は中央を廣くし上下二方に至るに從て隘くし火熱を均一に通ぜしめんとせり是上下二方は火氣強く感ずるも中央は之に反すればなり而して最下の階段は爐火面より一尺八九寸位にして火蓋の上に荷ふ劇烈なる火氣の觸るゝを防ぐため亞鉛板を張れり天井は平圓形とし其中央に直徑一寸八分の圓管を通じ此管を屈曲し下方に向はしむると五尺五寸位にして壁の外方に開口す是れ火熱のために蛹より蒸發する水蒸氣を飽和せし熱風を放出せしめ早く蛹を乾燥せしめんが爲なり又天井を開くせしは温氣を飽和せる熱風の上昇を滑かならしむ此の如き構造にて百八十度乃至二百度の火熱を以て殺蛹するときは天井より下せし圓筒より刺しき勢を以て火氣と共に水分を放出し六時間にして全く乾燥す此の如くにて乾燥したる繭を未だ冷却せざる中薄葉鐵罐中に詰め密くなり又之によりて殺蛹したる繭の光澤解舒の如きは在來小仕掛のものに優るも決して劣ることなし今後養蠶製絲家各其業を分つの曉に至らば兎もあれ今日の狀況としては戸々の養蠶製絲行はるゝを以て斯る小仕掛の殺蛹乾燥も甚だ必要なりと信ずれば記して以て讀者諸君の示教を待たんのみ

◉雜誌　具消毒の急務及有效消毒法

兵庫縣城崎郡宗佐村　大日本蠶絲會員　三宅馬吉郎

農桑は國家の大本而して我國養蠶の業たる太古より刻聖躬親ら卒先發揚し給ひしを以て其道風に開けたりき加ふるに明治維新外交の間始と共に之が學說を泰西に採り之を從來の實驗上に試み大に稍足する所ありしを以て益ゝ該業の發達を來し隨て生絲及絹織物等の如き之を海外貿易統計上に徵するも爾來年々平均本邦輸出物價總價格の四割五分以上に上らざるはなし故に該業の消長は單に個人の生活に關する而已ならず國家の財政に一大影響を及ぼすや更に智者を待たずして知るべきなり夫れ斯の如し然らば該業は今後保守的に滿足すべきか豈夫れ然らんや請ふ見よ平附蠶種一枚大約蟻量四匁にして僅に六斗内外且つ降雨多量の年には五斗以下に降ることゝ屢ゝにして收支相伴はず失敗遂に產を傾け爲に世人をして貴重の該業を投機的事業と一視せしむるに非らずや固より其原因一にして足らずと雖も是他なし各養蠶家諸氏用具の消毒を忽にして只蠶種の撰擇に孜々として他に之が一大原因の存するを知らざればなり古語に曰く遠き慮なきものは近き憂ありと眞に然り假令年々無毒蠶種を拵立つるも一度病毒感染せし用具を消毒せずして其儘飼育するときは微粒子病毒の外硬化病軟化病の傳染著しく隨て繭蠶夥しきものなり然るに消毒せし用具を以てすれば降雨の多少に拘らず豐作すると云ふ先聖躬親の風に唱導する所なり今明治三十年の統計に徴するに收繭總額無慮二百十二萬一千九百四十四石而して之を蠶種一枚の收繭六斗を以て打算するときは蠶種の揚立枚數三百五十三萬六千五百七十三枚に當れり嗚呼如此にて放棄せんか目下の如き賃銀低廉の時と雖も尙利する所少なし況や賃銀騰貴の曉には遂に佛國の如く養蠶家に奬勵金を交附するも尙年々減額するは火を視るよりも明なり然らば如何せば可ならんか余が年來の實驗に用具消毒より先なるはなし其方法に充分ならしめんか同量の蟻量にて成繭平均九斗内外を得る敢て難しとせず而して本率により換算すれば成繭總額三百十八万二千九百十五石七斗となる之を本年の時價一石四十圓の割を以て算出する時は該增額の石數にて實に四千二百四十三萬八千八百六十八圓を利せり夫れ一昨年稻作浮塵子の被害五千萬圓は官民の均しく痛苦を感ずる所該法にして行はれんか一歲にして殆ど償はんとす（是別に蠶室蠶具及人夫を增を要せず）嗚呼亦利も大ならずや請ふ余をして暫く實驗を語らしめよ抑ゝ余が家地方の流行に促がされ耕作の傍ら該業に從ふこと茲に數世然れども固より餘業又見戲を免かれざりき明治二十年余や甫めて該業に志し血氣勃々禁ずる能はず依て同二十八年笈を負ひ東都に遊學し聊か得る所ありき當時佐々木理學博士に聞く降雨の多少は蠶業に影響するや蓋し少し夫れ歐洲殊に伊佛の如きは降雨殊に少量なるも却て其多量なる我國より收穫更に少なきには以て徵證するに足れりと此言余をして一驚を喫せしめたり然れども博士の言敢て價値なしとせず却て他日大に之を實驗に徵するあらんとせり其後幾何もなく鄕里に歸り該業を實地に繙むること爾來數年其間既習の學理を應用し殊に消毒、豫防の

二法に力を盡せしも年々歳々失敗を重ね殆ど產を傾けしかば一は知人の忠告を煩はし一は白面の養蠶家をして生兵法大傷の基と余を嘲笑せしめ剩へ漸く改良飼育法の行はれんとする我奈佐村をして該法を見るに將さに蛇蝎も啻ならんとするの傾向を來せり余が破產及幾多の嘲笑は忍ぶべきも今や該法の心中の蟲たらんとするを如何せんと種々焦慮せしかば幾難汝を玉にすとの格言に漏れずして一種の用具消毒法を案出せり是實に昨年のことなりし抑と余が蠶室は南方一帶山を負へるを以て四齡以後は大概百ベルセントの濕氣を含み本年の如きは眞く乾燥せるとき雖も尙七十八ベルセントの濕氣を有せり然るに右消毒法を施せしかば其效大に著はれ又昔種の如きは原種百六十八蛾此蟻量七匁にして上繭一石八斗九升、玉繭一斗八升・屑繭二升、合計二石九升を得又之が絲量は上繭絲二貫百七十匁、玉絲二百十六匁其他眞綿若干を得たり（他の蠶見も之に準じ上作なりしも蟻量の精確ならざる故茲に出さず）是實に創業以來の好成蹟なりきは是に於て佐々木博士の言余を詐かざりしを知り且濕氣中に蠶業の新版圖を得たるを喜べり此法固より簡易なるも該博士の首唱余が實驗になるものなれば同業の士文辭の拙劣を以て捨つるなく速に試用の榮あらんとと該業の爲め否國家財政の爲め一に希望に堪へざるなり其法及利用器は左の如し

用具消毒方法及注意

一其法は晴天を選び莚及蠶網を蒸すに在り之を蒸すには麻蒸コシキを用ひコシキの內容に準じて蠶莚及蠶網を束ねとなして二層に重ね之を方言キリバリ拱を具へたる釜の上に置き終始華氏二百度の湯熱を以て四時間以上蒸すべし此間二回以上清水を注射して釜中の湯量を補ふべし但莚の厚薄に由り多少の相違あるも大約一回百枚內外とす網は莚の上に重ね置くべし

一既に蒸し了らば束を解き半日以上日光に乾すべし

一蠶莚及網多數にて一回に蒸し盡さゞるときは每回釜中の湯をして更に清水と汲み代ふべし

一其時期は養蠶の前後何れにても別に異狀なし

一蠶室及飼育籠はメチールアルコールにて熏蒸すべし若し止むなき場合は蠶室は掃除を丁寧にし蠶架及飼育籠は清水にて洗ひ日に乾して用ふべし

一此消毒法を行ふには製紙原料たる楮を蒸す地方及麻の產地は新にコシキを製作するの必要なく利用するの便あり而して新に製するも其價六圓以內にて足れり

一該法に據り消毒するの長所は用具の汚損少なく且用具に附着せる汚物を湯の蒸れ上るとと共に幾分か洗ひ去る故飼育中消毒せざる用具に比し水分を吸收することと少なく爲に蠶見の衞生上有益なるは他の消毒法の比にあらず

余は蠶業上地方の卒先者と目さるゝ故余が失敗は斯業の消長に大關係あるを知る故第一蠶種の選擇、第二蠶室の天井氣拔及室內溫度の注意、第三消毒（是は效力なかりし）第四飼育法、以上に注意せし故不眠蠶及節高等は生ぜざれども年々病蠶起縮を生ずること多く隨て斃蠶多かりし起縮を生ずる原因に就ては先輩の蠶學者を以て任ずる人にして尙眠前乾燥或は濕潤に失し及食桑の不充分なるに起因すと然るに余は溫度及除沙の堆積せざる樣注意せし故眠前乾燥或は濕潤に失せざるは勿論食桑不充分なる等は一回もなかりしに每年該病に侵かさるゝを免かれざりし近來大森農學士の唱導せらるゝ所に據れば該病の原因は全く微粒子其他帙化病の感染に因り著しく食慾を減じ遂に生長すると能はずして斃るゝものなりと此說最も眞なり余は本年の如きは四眠の際一箔尙四五頭宛就眠せざるものあるも早く止桑せるも五齡に至り一頭も起縮を生ぜざりし是蠶種より微粒子病の遺傳なきと用具の消毒充分なりし故用具より感染せざりしに外ならず余の他に昨年まで年々失敗せし某氏あり余は之にも勸告して同樣の法を行はせしに本年は從來に見ざるの眞結果なりし嗚呼蠶見飼育法中用具消毒の急務にして而も余が案出せる用具消毒の效も亦大なるを信ずるなり

●共同蠶種購求の必要

京都府愛宕郡靜市野村　大日本蠶絲會員　庄司恒之進

善種を播けば美果を生じ惡樹を植ゆれば惡實を結ぶとは實に萬古不易の眞理と謂つべし凡て動植物の發育は外界の制裁を受け漸次其性質を變ずるものなれども親より稟けたる特質（即ち遺傳）は之を根底より破壞する能はず動植物の繁殖を謀るものは必ず先づ其親の有せる特質を知悉して後其種類を撰擇するを要す蠶見に於ても亦然り養蠶家は每年蠶種の精粗良否を鑑別して購求飼育せざるべからず誤て粗惡の蠶種を飼育するときは豐作を得ざる而已ならず病毒蠶室に殘留して翌年の蠶見にも害毒を及ぼすに至る蠶種の鑑定豈に忽諸に附すべけんや

某製種家曰く今日までの蠶種にあつては或は粗惡のものを製造販賣せし輩もあらん然れども彼蠶種檢査法實施後は斯る組製蠶種は跡を絶つべしと該檢査法たる唯一讀するのみにては間然する所なく組惡蠶種を製造する等の奸策を施すの餘地なきが如きも靜思熟讀するときは期する所の效果（該檢査法制定の精神）を得べきや否や吾人をして大に疑はしめたり果せる哉怪報は吾人を警醒せり某縣蠶種檢査所長及檢査員數名は詐欺强迫取財の嫌疑を受け拘引せらゝと嗚呼養蠶家の蠶種に檢査合格印の押捺せるを以て精良の蠶種と誤信し購求飼育する程危險なるはなし蠶種の精粗は當に病毒の有無多少のみを以て別つべからず病毒の有無は勿論、血統の正否、進化の高低、飼育の難易等に至る迄も知悉精査して良否を判別せざるべからず而して以上の要項を知らんと欲せば製種家に就き飼育の方法、繭の撰擇より製種結了までを觀察し良種と認めたるものを規定の檢査を受けしめて購求するにあり然れども斯の如きは漸く數枚の蠶種を飼育する養蠶家には到底實行を望むべからざるなり玆に於てか吾人蠶種共同購求の必要を唱導するものなり左に其方法の概要を說述すべし

一村若くは數村の養蠶家協同して組合を設け（或は重要輸出品同業組合法に依り設けたる蠶絲同業組合の事業となすも良し）其内より養蠶業に熟達せるもの一名乃至數名を撰拔して蠶種を購求せんとする製種家へ掛御當時若しくは三眠前より製種結了迄派遣滯在せしめ左の各項を視察せしむるにあり

（一）飼育の巧拙　飼育の巧拙に依り蠶兒發育の齊不齊となり且病毒をも誘致發生せしむる而已ならず進化の高低に大關係を及すものなり

（二）食桑の適否　食桑の良否は蠶兒の進化及發育に大關係を有す

（三）病蠶の有無　多數の病蠶を生ぜし蠶兒の營繭より發蛾產卵せしめたる蠶種は性質虛弱なる而已ならず病毒を遺傳す

（四）種類の純雜　種類混合の繭より發蛾交尾せしめたる蠶種は雜種を生じ繭の品位を墜すものなれば血統正しき蠶蛾より產卵製種せざるべからず

（五）飼育の難易　蠶兒虛弱の原因に二種あり一は病毒より來るもの一は製種の方針當絲量多き繭を得んと欲し絲腺の發育のみを努め躰育を省みざるより來るものなり後者の蠶種は熟練家に非ざれば好果を得る能はず而して絲量の多寡と絲質の良否とは併行すべきものに非ず絲量と食桑量とは正比例をなすものなれば絲量の多きのみを以て良種類と認むべからず

（六）其他撰繭（撰繭の標準は檢査法に規定あり吾人は別に意見を有するも他日改めて論ぜん）交尾產卵の適否等

以上の各項を注意視察して精良と認めたる蠶種を購求飼育するにあり此精撰蠶種にして飼育其宜を得ば決して遂作なきは吾人の固く信ずる所なり是より更に進て蠶種共同購入實行に因り享くる利益の主なるものを擧ぐれば

（一）精良の蠶種を廉價に購求し得る事　製種家は一口數枚の注文を多數受くるに反して一口より五六十枚以上の注文を受くるときは發送等に於て手數を省くのみならず遞送費を大に節減し得らるゝが故に隨て代價を低廉ならしむることを得

（二）種類を一定し得る事　總て生物は原種撰擇の方法に因り變種すべきは既に述べたるが如し而して今日蠶業界の一問題たる種類の一定は全國を通じて一定せしむるが如きは机上の空論たるを免れざるも一村若くは一郡の蠶種一定は共同購求に依り目的を達し得べし同種類の蠶種にても製種家の撰擇方法の異るに隨ひ蠶兒の特性に異同あり故に同一の製種家に就き同種類の蠶種を求め飼育して始めて一定の蠶繭を獲らるべし

（三）繭の價格を增進せしむる事　製絲家の繰絲するや區々種類の混合せる繭より繰絲すると品位一定の繭より繰絲するとは後者は工費を大に節減し得る而已ならず蠶絲として纖度整正、類節減少、固有の光澤を損せざる等蠶絲の品位を上進せしむるものなれば製絲家は一定の蠶繭を多量に獲らるゝに因り高價に購求すべし

蠶種共同購入の利益ある前述の如く且つ先輩諸氏の屢ゝ口に筆に唱導誘接せらるゝに拘はらず之が實行は二三地方の養蠶家に行はるゝに止り未だ一般養蠶家の實行を見ざるは何ぞや其原因は多々あるべしと雖も奸商輩の詭言を弄し著實なる養蠶家を欺罔し此蠶種を飼育し若し遂作せば其代價は要求せず更に他の蠶種を無代價にて配付するの保險附廉價蠶種（實際は危險此上なく高價無比の蠶種なり）なりと稱し組製濫造の蠶種を賣附られ養蠶家は遂作するも多くは六七分の收繭を得幸にして皆無の悲境に遭遇する者尠きと代價の僅に低廉なるに迷ひ奸商輩の詭計に陷れるを曉らずして購求飼育する之が主因たり精撰

の蠶種は粗製のものに比すれば同一の飼育をなして二割以上の増收繭を穫ちゝは實に易々たり加之桑葉人夫等の費を加算するときは粗製蠶種飼育の爲に被ふる所の損害の莫大なるに驚かざるを得ず熱誠なる養蠶家諸氏よ一日も早く蠶種共同購入法を實行せられ小にしては個人の利益を增進し大にしては海外輸出品の首位を占むる蠶絲の增殖發達を圖り以て國家富强の基礎の確立を希望する切なるより鄙文を草し江湖諸達の御覽を煩す冀くは文拙にして意の盡す能はざるを咎めず吾人精神の在る所を洞察あらんことを乞ふ

養蠶と家庭教育

在靜岡縣中遠信易農學校
大日本蠶絲會員　磯部龍次

養蠶は我國貿易の隆衰富國の消長に係る一大事業なることは既に世人の普知する所にして復た多言を要せず而して吾輩は養蠶は獨り國益事業なるのみならず家庭の教育上亦有要の仕事たるを信ず往時寺子屋的教育時代にありては家庭教育は左まで重きを感ぜざれども今日學校的教育時代に在つては家庭の教育は見童の品性をして著しく優劣あらしむるを感じ多くの父兄教育法に就ては常に考慮を煩はす所なり否正に考慮すべきの事たり寵童愛嬢をして活潑、温厚、質樸、勤儉の性を涵養せしむるには父兄慈母の引導宜しきに適せざるべからず是れが良法は種々あるべしと雖も蠶兒を與し、其飼養を樂ましむるは亦天賦の良性を啓發せしむるに功あらん

蠶兒は靜穩可憐の昆蟲にして新鮮なる桑葉を與ふれば欣然蠶隔把て食するの狀觀快悦禁ずる能はず更に滋葉を給與して飼養に汲々たり蠶兒の長育目前に著しく愈〻愛顧して指く能はず片時も其傍らを離るを欲せず朝は夙に眠床を脱して先づ蠶兒を訪ひ夕は深更尙眠欲を忘る自ら逐勉し自ら勞働し惰弱の見童も自然的に規律を養はれ勉强力を起さしめ虚弱の愛嬢も筋骨の動作を盛ならしめて健康を得ん

天氣の晴雨寒暖に際しては蠶兒の動靜を恤へ温和乾燥の氣に既保せんことを務め蒸沙の堆積あれば之を除きて清潔法を行ひ除沙すれば直ちに健康活潑となるを見て氣候と居住の衛生に感應すること切なるを悟り空氣の欝滯するあれば其流通を圖りて呼吸の生理を應用し蠶兒の衛生よりして自身の攝養に考及し可憐の蠶兒を取扱ふに温和鄭嘩に待ち愛育撫育して慈愛柔順の品性を啓發し粗暴輕忽の風を矯め篤厚着實ならしめん

蠶兒は悉到なる飼育に依て肥大に發達し豐美なる營繭を酬ふべし顆々粒々枇杷に懸るの美觀賞するに堪へたり幼時一頭の蠶兒は一蟻蟲大に及ばず而も斯る大なる美なる繭を營む幼時躰小の時一頭の損失は此に至り一繭の損失となる一頭の蠶兒を惜むは當さに一顆の繭を吝むに値す一擧の粗行には大なる損失あり一刹那の悪念は他日の大罪を招くの因たるを悟らん是れ兒童をして着實緻密に赴かしむるものなり收繭すれば之を蠶籠或は其他の器に裝列し豐美なる收穫に歡歌を奏し純潔なる光澤に觀官を誤まめ力めて座埃を避け風氣に曝らし或は並列し或は重疊し愛玩賞弄惜く能はず其爲たる光彩純たる色澤は心神をして自ら優美高尙ならしめ敎旬の拮据勉勵には今日の豐富鮮麗なる報酬あり人世奚んぞ光陰を輕ずべけんやとは正に此時兒童の胸中に浮ぶべし

庇護賞愛せる蠶繭は數日ならずして其内より刺破して蛆の出づるを見るべし繭絲は空しく穴明となり終れり絲紬ざんとすれども得ず發蛾せしめんとすれども無益なり復た如何ともする能はずして悲淚に沈陷し怒りの淵中に迷ひ途に悟る事業は容易ならず一得一失は事に於て免るべからずと蠶は桑樹に害して吾人に益す吾人は蠶に因りて桑樹に肥益す蛆は吾人が蠶に害して桑樹に益す宇宙間は亦生存競爭の修羅場たるを悟ふ

繭は之を販賣せんか多くの黄金に易ふべし以て其高貴なるを知り且つ勞力の貴重にして實に財本たるを想はん繭は之を殺蛹せんか蛹内にありて苦悶するの響騷然たり之を製絲せんか蛹は煮殺せらるべし然れども是に依り得たる生絲は遙に海外に貿易せられて我國家を富ますなり實に蠶は身を犧牲にして我國に致せり蠶軍を率ゆるの將たる吾輩復た勵功あるべきなり是れ實業の重ずべきを知り殉國心を惹起せん而して織成されたる帛は「五十者以可衣」輕暖温柔光彩煥然たるの衣服となる美服は夫れ刻苦たる勞働に產生せらる之を欲するものは須からく勞働せざるべからざるなりと

養蠶の教育に奏効ある唯以上に止まらず兒童少しく科學を解するに至らば蠶兒の病に罹るあれば之を取りて觀察し講究し其病毒に斃れ毒は傳染して健蠶に及ぶを習ふべし稚ち傳染病の恐るべく其豫防の忽諸にすべからざるを感知し以て社會公衆の衛生にも考及し顯微鏡的思想を發達し科學と實業の深き關係を惟ひ或は昆蟲の變態を目擊し或は之を解剖して機官構造の完備せるを寶ひ病症の形態に於ける異常を知

り科學應用の趣味を骨むるに至らん

養蠶は豈獨り家庭に於て有効なるのみならんや學校に於ても亦正に之と等しき效果あるべし

養蠶を以て兒童の慈愛心を發達せしめ規律を養ひ勉强力を興奮し衞生的思想、緻密勤儉の觀念、身を以て國家に殉するの義心を喚起せしむるに於ては我國民の文明は開進し着實温厚の良風を促發し尙且貿易事業を伸張せしめ國家富與をして一段の早期に俟つを得べき歟

◉問　答

◉桑樹の件に就き質問

千葉縣香取郡東大戸村　大日本蠶絲會員　鈴木　淵一

桑樹の仕立方に高刈、中刈、根刈等の別あり其得失及理由を問ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　宮原　忠正

桑樹を仕立つるに高刈、中刈、根刈等の別あるは其地の氣候土質等の同じからざるに原因するものなれば必竟其土地の情況に因り利害得失を講ぜざるべからず即ち高刈は霜雪に堪へ耕耘容易にして且つ長壽を保つの利ありと雖も摘採不便にして蟲害に犯され易く根刈は之に反し摘採頗る便利なりと雖も空氣の流通惡しく葉質軟弱にして降雨の際下葉に泥土を附着し易きは此種の缺點とする所なり中刈は前兩者の中間にありと雖も氣候温暖にして蟲害多く風力甚しき地方には適せざるが如し而して高刈、中刈は根刈に比し能く水害に堪へ萎縮病に罹ること少なく概して收葉年限長しと雖も繁茂の速成は遠く根刈に及ばざるものなり

●蠶種の件に就き質問

千葉縣印旛郡豊畑村　大日本蠶絲會員　並木　豐吉

(一)蠶は食桑の加減に依り躰量、繭絲量、蛾躰量に差異ありて蛾躰の大なるものは蠶卵も多量なることは會報第八拾號上篇の加減(吉池君の演說)の說明に就て了解せり然るに余昨年春蠶五齡七日目給桑回數二十七回に至りしとき大風雨に際し取置き桑に缺乏を告げし爲め終日只一回の給桑に止めたり翌日晴天給桑二回にして一箔内に數十頭の熟蠶を認めたるを以て上簇に着手したり而して成繭後繭量を檢するに一顆重量三分四厘餘にして壹升の顆數三百顆(但し故良小石丸)其繭を撰別して原種用蠶種を製造せしに卵數も稍〻尠なく原種檢査の成績總蛾數七百二十八蛾の内無毒四百四十蛾、有毒二百四十八蛾なりし而して該蠶卵より孵化したる蠶兒を飼育せば其生育は如何なるものなるや又其强弱は如何

(二)前者に反して充分食桑せしめ好結果を得たる青熟質に改良を加へたるものにして成繭壹升の顆數二百二十顆のものを撰別して原種製造用に供したるに蛾躰も肥大にして又卵量も甚だ多かりし然るに原種檢査の結果總蛾數二百八十蛾の内無毒百六十蛾、有毒百二十蛾の成績を現はしたり蠶兒飼育中健全强壯にして聊か批難する所なかりしものにして斯る割合を呈したるは如何なる點より來りしものか想ふに原種則ち微粒子の遺傳より來りしにあらざる乎然りとせば原種用として掃下し差支なきや

(三)蠶種は寒地に於て飼育製造せしものを暖地に於て飼育するを良しとすと然らば今同質同候の土地にて高温育則ち華氏平均温度八十度にて飼育製造せし蠶種を温暖育則ち華氏の平均温度七十度に於て飼育するも差支なきや

(四)蠶兒飼育中室内に於て從來用ひ來りし洋燈(ランプの類)を燈し置くときは蠶兒に有害なるや若し害ありとせば之に代ふるに簡便の良器ありや

答　大日本蠶絲會技藝委員　吉池　慶正

(一)小石丸種にして其繭量三分四厘餘に至りしと果して然らば其蛾が產附せし蠶卵より孵化せし蠶兒なれば他に生理上の障害なき限りは生育尋常にして强弱等の差なかるべし

(二)原種の病毒を含有せしに因れるなるべし而して或る關係によりて他より微粒子毒を蠶室内に襲入せしむるに當り其室内に甲乙兩種の蠶兒を飼育する場合に甲種は甚しく病毒に感染し乙種は之に感染すること頗る溝きものあり是れ即ち種類によりて病毒抵抗力に强弱あるを以てなり聊か參考までに一言蛇足を添ゆ又其顯微鏡檢査上無毒に歸せしものは原種用として掃下し毫も差支なし

(三)八十度位の温度にて飼育製造せし蠶種より孵化せし蠶兒を七十度位の温度にて飼育することは生理上甚だ好ましからざるなり多くの場合にて蠶兒は虚弱にして繭質も佳良ならざるものゝ如し

(四)洋燈を蠶室内に用ふるも油煙と稱する黑色の不燃燒物を生ぜしめず又其燃料の石油を桑葉、蠶兒等に觸れしめざれば毫も差支なし

●蠶卵の凹み方に就き質問

新潟縣西蒲原郡道上村　大日本蠶絲會員　大屋哲雄

土地高燥にして空氣の流通宜しき場所及養蠶期節の早き所の蠶卵は中央の凹み方宜しく之に反するものは凹み方少なしと云ふ其理由如何

大日本蠶絲會技藝委員　菅野平右衛門

答

凹なるものは桑樹を栽培する畑地に關すること大にして河川の沿岸等にて砂礫を堆積し流沒の木葉等累々として混積し表層は滿面眞砂を蔽ふこと三尺有餘にして下層に至れば石礫を累重するが如く時に河水の滿溢するときは湧流に混合する沈澱質の養分なるものは曾桑園に留滯するを以て是等は無類の培養に化す之に類するもの稀には山間幽谷にもなきにあらず斯の如き畑地の桑を以て八十八夜前後の掃立なるときは凹み完全にして色澤美なるものなり之に反して土質赤粘土、黑ボコ、黑色の粘土眞土の如きは凹の不完全なるものとす左れば入梅後半夏の候に接近するときは暖然の進度乾燥過度の融化により桑葉主成分中の養液なるもの減耗するを以て其成繭絲量の如きも春蠶の掃立好時機のものに比し幾分を減ずるに至る而して此時期の蠶種は其卵殼を始め内容に構成せる皮層の厚きを認むるを以て自然凹の有無に關係を有するものゝ如し蓋し其蘊與に至りては地質學の調査によらずんば明確なる能はず

●蠶躰の脱皮に就き質問

神奈川縣都筑郡田奈村　大日本蠶絲會員　井上富治

春蠶四眠起凡そ十五六萬頭の内二百頭以上蠶躰は脱皮せしも頭部に限り舊皮を存し爲めに食桑すること能はず而して蠶兒は强壯に見ゆるを以て頭部の舊皮を去り給桑せしに繭を結び其儘に捨置きたるものは斃死せり右は如何なる理由なるや

大日本蠶絲會技藝委員　毛呂正容

答

蠶兒變蛻の期に際し往々舊皮を脱去すること能はずして黑色を呈せるものを見ることあり或は中身或は尾部に舊皮の一片を附着することあり前者は之を治するの手段なしと雖も後者に在りては其舊皮を巧みに脱去せば概して蠶兒自然の命を全ふせしむるを得るものなり問者の所謂頭部にのみ舊皮を蛻去する能はざるものにありても亦然り此等の事實に依りて推考せば其原因蓋し疾病にあらずして眠起の間に於ける偶然の出來事に遭遇せしによるものならん例せば眠中に於て過度の乾燥に遭はしむるか或は劇しき動搖を感ぜしむるか或は催眠除沙の期遲きに過ぎて已に熟眠せる蠶兒を移動する場合に於て其方法の宜しきを得ざる等に因るものならん

●濕氣と鹽分とに就き質問

静岡縣濱名郡天王村　大日本蠶絲會員　鷹森倭文太

余は本年濱名郡蠶業學校に於て鹽水にて洗滌したる莚を用ひて蠶兒を飼育せしに普通標準育（普通の莚を用ひたるもの）と優劣を見分け難き程の好結果を得たり然れども普通の莚よりは鹽分を含む所の莚は濕氣を含むこと多きは已に世人の知る所なり而して濕氣は蠶病特に軟化病の誘因をなすは通則なりと思はる然るに此病蠶を認めざるは或は鹽水洗滌莚は普通の莚より濕分常に多きも鹽分を含有するを以て醗酵少なく爲めに細菌、菌類等の病原菌の繁殖を妨ぐるが故に濕氣を含むこと多き割合に軟化病蠶等多からざるものなるか

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　辻暢太郎

答

余は未だ鹽水を以て洗滌せる莚を蠶具に試用せしことなければ茲に確答すること能はずと雖も病蠶を生ずることなければ問者の説の如くならん

●病蠶に就き質問

千葉縣香取郡本大須賀村　大日本蠶絲會員　飯高興市

(一)嘗て聞く所に據れば白殭蠶は其黴菌蠶躰に附着し水分を吸收して發芽し終に硬化白粉を生ずと然るに佐々木長淳先生の説に據れば黴菌飛散して桑樹に附着し其桑葉を蠶兒に給與するときは白殭毒は桑葉と共に蠶の胃中に入りて空氣の不流通に加へ蠶下の濕氣より生ずる一種の熱の爲に益々蕃殖力を逞ふして蔓となり枝を生じ蠶躰の膜を破りて外部に突出するを以て蠶は斃れ白殭毒は愈々蕃殖し枝に枝を生じて枝頭に無數の白粉を生ずとあり

右何れが信なるや

(二)余昨年夏蠶を飼育せしに上簇前は一の斃蠶なかりしが上簇の際に至り頭部膨大にして繭を作らず桑葉を與ふれども食せず擧動不活發にして蠶座を這出し頭を擡げて動かず但し空氣の流通は充分なり右は如何なる故なるや

(三)空頭蠶は空氣の密閉より生ずと云ふ然るに其他より生ずるは如何なる故なるや

(四)先日余が家に養蠶巡回教師來りて曰く眠中乾燥甚しければ起後節蠶となりて斃ると信なるか

(五)微粒子病に罹りたる蠶兒は多く如何なる狀態を呈するや又之を防ぐの方法ありや

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　河原　次郎

答

(一)白殭蠶は始め其病菌の胞子蠶體の外面に附着し自ら水分を吸收して發芽し皮膚を貫きて體内に菌絲を侵入せしめ充分蔓延するに到れば再び體外に菌絲を發出せしめ其先端に胞子を生ずるものにして詳細は昨三十一年八月發行の大日本蠶絲會報に圖書を加へて說明せり

(二)空頭病に罹れるなり

(三)空頭病は細菌の寄生に因る而して此病菌の寄生を招くべき誘因は種々あり大森農學士著述日本蠶病論又は抽著蠶體病理を閲讀ありたし

(四)眠中乾燥に過ぎたりとて必ずしも節蠶を生ずるものにあらず

(五)微粒子病に罹るときは細蠶遲れ蠶となるもの多く又光る蠶、縮み蠶となることあり歐洲種にては黑褐色の斑點を多く現出す蠶種を精撰せば略ぼ之を防ぐを得べく加ふるに消毒法を行はゞ全く防ぐを得べし

●燻烟消毒に就き質問

新潟縣中蒲城郡谷濱村　大日本蠶絲會員　青木　不一郎

昔て佐々木博士は諸種の木材の鋸屑を燻烟するときはフオルムアルデヒート瓦斯を發散するを以て蠶兒の病菌を容易に死滅に歸せしめ消毒に大有效なることを發表せられたりしも少しく疑義あり左の件々御教示を乞ふ

(一)適量のフオルムアルデヒートを發散せしむるには八疊の室に燻烟する量何貫匁を要し松、杉、檜等に由りて差異ありや

(二)燻烟より生ずる溫度は何度に至れば何日にして全く死滅に至らしむるや

(三)松、杉、檜各種の薪を鋸屑に代用せんとするには其比例如何

(四)鋸屑十貫目、薪十貫目より何匁のフオルムアルデヒートを燻生せしむるを得るや

大日本蠶絲會技藝委員　理學博士　佐々木忠二郎

答

(一)木材の鋸屑にて燻烟するには大抵室内を燻烟にて咫尺を辨せざる位になし二三時間許り其儘にし然る後ち燻烟を排出すべし

(二)病毒を驅除するは燻烟の溫度には關係なし

(三)松、杉、檜等の烟の優劣は本會報第八拾貳號雜報欄に就きて見らるべし

(四)烟中に存ずるフオルムアルデヒード瓦斯の量は未だ確定せず

●消毒法に就き質問

岐阜縣惠那郡坂下村　大日本蠶絲會員　大岩　芳太郎

(一)田中李次郎氏發賣の蟻酸アルデヒード液一磅を二斗五升の水に入れ蠶室蠶具の消毒をなし直に養蠶を營むも別に害なきや

(二)右蟻酸アルデヒード液を籾糠に散布し之を乾燥せしめて後ち蠶座に時々散布せば蠶沙の醱酵或は諸種の細菌をして發生せしむること能はざらしめ蠶病豫防の一助たるべき樣考へらるる其可否如何

(三)右液を以て蠶具の消毒をなし尙ほ熱蒸の消毒を併行せんとせば何れを先にして可なるや又蠶具は洗ふて後ち消毒するか消毒の後洗ふべきや

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　大森　順造

答

(一)蠶室蠶具を消毒し直に養蠶をなすも別にさしたる害なし是れ蟻酸アルデヒードの稀薄液は毫も蠶兒に害なきものなればなり

(二)問者の言ふが如くせらるれば蠶病豫防に效あるべし宜しく之を試みらるべし然れども濃厚なる液なれば其しからざるのみならず却て損なり百分の一若くは二百分一の蟻酸アルデヒード水を用ひらるべし籾糠に散布し久しきに至れば瓦斯發散して其效なきなり而して蟻酸アルデヒードの百分の一を含有する液を製せんには一ポンドのフオルコリンに井水九斗三升を混ずべし前に四石云々と記したるは誤算なり序に之を正す

(三)蟻酸アルデヒード瓦斯を密閉せる小室内に於て發散せしめ十分に熏蒸するときは別に熱蒸氣にて消毒するの必用なし又熱蒸氣を用ひて消毒すれば蟻酸アルデヒード瓦斯を用ふるの二重手間を要せざるなり若し二重に行はんとせば前に蟻酸アルデヒードを用ひ後に熱蒸氣を用ひらるべし大躰蠶室の消毒には蟻酸アルデヒード水を雑巾に含ませ之を以て室内を普く拭ふべし其分量は百分の一を含むものたるべし然れども蠶具の消毒には密閉せる一小室を造り此内に蠶具を配置し消毒燈を用ひ瓦斯を發生せしめ十分に熏蒸せらるべし是れ空際に存する病毒をも一様に殺滅するが故なり

●消毒蠶室に就き質問

山形縣最上郡豊里村　大日本蠶絲會員　八鍬　重利

當地方は未だ蠶薬の進歩せざるを以て皆自宅にて蠶見を飼育するの有様なり然るに本年赤痢病蔓延し之が消毒の爲め石灰又は石炭酸を床上或は床下に至るまで悉く撒布せり然るに明年右室内に於て蠶見を飼育せんとするには定めて蠶見に障害を及ぼすものならんと考ふ依て問ふ此の如き室内にて蠶見を飼育するも害なきや又害ありとせば如何なる豫防を施行して可なるや御教示を乞ふ

答　大日本蠶絲會技術委員　農學士　河原　次郎

生石灰又は石炭酸は傳染病毒を撲滅するを以て之を蠶室に用ふれば蠶病豫防の效あり假令流行病なき場合にも之を應用するを宜しとす但し之を蠶具に用ひたるときは清水に浸して洗滌するを要す

●上族蠶に就き質問

静岡縣賀茂郡稲梓村　大日本蠶絲會員　和泉　德太郎

蠶見上族に際し他の蠶は多く上族し終るも尚ほ蠶躰非常に肥滿して能く桑葉を食し漸次節と節との間凸形をなし其躰を指頭にて押せば固く更に結繭の模様なし而して其腹部を切開し見れば絲質を備ふるも之を吐かざるは如何なる理由なるや又其病名あれば明示を乞ふ

答　大日本蠶絲會技術委員　芝山　直清

病名は所謂節高にして地方に由りヂャー或は食逃け等の方言あり上族後其徴あるを認めたるときは直に拾ひ採り乾燥したる族又は紙等に包み置きて桑葉を與へざるときは遂に結繭するに至るものなり

●統計

●六月中生絲類及絹物類輸出入前年對照表

（大日本外國貿易月表に據る）

種目	三十二年 數量	三十二年 價額	三十一年 數量	三十一年 價額
輸出 生糸	二九〇九七斤	一四三二八五四一〇円	三四〇三六三斤	一九一四四〇四四一四〇円
輸出 屑糸	六九三七	六七五〇〇〇	三〇一三一	三三〇八〇〇〇〇
輸出 屑綿	八一八三五	七一八一〇〇〇	二七〇八五三	一〇九三三三〇六〇〇
輸出 眞綿	八	三六〇〇〇	四	一〇六〇〇
輸出 縮緬	一八五貫	—	一五九六七貫	一九一三五〇〇
輸出 二重羽二重	四三八七八	二五五三〇〇〇	一二八	一四一八〇〇〇
輸出 甲斐絹	二六七一	大八四四五一三七〇	三五七三三	五五五三三三五八〇
輸出 他の諸絹布	八九七	四三六五六七〇	二七七	一三五〇七五〇
輸出 絹綿	一九八	七一九〇八四〇	二八七	五六六八三三八〇
輸出 製糸	四五二八七〇	四五二八七〇	一七六	三八八七〇〇
輸出 手巾	一〇〇〇九八	三九九三〇八〇〇	一五三四三七斤	四一九九一四八五
輸出 絹織布	三一七六九六〇	三一七六九六〇	—	—
輸出 刺繍絹布	四〇六四九七〇	四〇六四九七〇	—	—
輸出 他の諸絹製品	—	—	—	—
輸出 計	—	三七五五三八一三三一〇	—	三八八八八六六一〇〇

輸入			
繭			
生糸	九九五二	六、六六九・四〇	五、六〇三
玉糸	一一	九六・七九〇	八七〇
柞蠶絲	九四一三	三、七一九・五〇	三、〇八八・〇〇〇
絹紬	六	一六・二九〇	一四〇九・一〇〇〇
縮緬	四九八	六三九・八七〇	四、六七・五六〇
絹紬	六〇、九二〇	一五、六六五・三〇〇	三四、九七七・五六〇
繻子	五、九七七	一〇、六六一・九九〇	三〇、一六六・〇八〇
絹繻子	三、六六九	四、〇四六・三〇〇	一、一五、八・七六〇
絹綿天鵞絨	三、七四五	三、七一七・四〇〇	四一、三四〇・一〇〇
他の諸絹布	八四四七	六、〇三五・五六〇	一二、〇四九・九二〇
其他諸絹製品		六〇・六〇	三、五三〇・五六〇
計		九、四九六・四〇〇	一二七、八三七・三二〇

（備考）三十二年六月中の外國貿易通計は輸出千三百六十五萬六千七百〇五圓五十七錢、輸入千九百四十萬九千七百二十六圓五十四錢にして輸入超過五百七十五萬三千二十圓九十七錢なり又三十一年同月中は輸出千三百〇八萬三千六百十六圓三十四錢、輸入二千九百十九萬五千五百十六圓四十四錢にして輸入超過千六百十一萬千九百圓十錢なり

〔參照〕自一月至六月生絲類及絹物類輸出累計

種目	三十二年		三十一年	
	數量	價額	數量	價額
生糸	一、八四〇・一八五斤	一七、〇八〇、〇三六・九五〇円	一、五一四・〇〇三斤	一三、〇〇五、四一四・二四〇円
製糸	四九六・七二七	四四七、九二六・六三〇	六六六・二五四	五三六、〇九八・三五〇
斗絲				
屑空屑	一、三三三・九六〇	八七三、〇四一・三一〇	一、三一〇・九〇三	六九、〇八六・六〇
蘭	一〇、〇一五	七、六〇〇・〇〇〇	一三、〇〇九	九、三〇〇・〇〇〇
屑蘭	—	—	二、六四五	六、四九四・〇〇〇
屑綿	五三	一、六〇・九九〇	一八	一、一二〇・七二〇
屑綿	一〇、一一三	六、九二三・三〇〇	六〇、五四一	二、一一、六四・七二〇
縮緬	八一四	一二三、四九九・三三〇	四三	五四、一九五・五〇〇
羽二重	三八三、五六三	六、四八六、四六六・〇四〇	三三、二一〇	四、七六四、六五〇・五〇〇
甲斐絹	四四四、四六三	六二〇、七〇三・五一〇	一四六二一	二八四、五九九・九〇〇
他の諸絹布	七、九〇九	五一、六二〇・九〇〇	八、八三一	五一、五三八・六九〇
絹綿布	七四打	三、九四六・六二〇	三〇五打	五、九九三・六六〇
絹製手巾	四五三、三三七	一、四九九、五〇三・〇六〇	五六七、〇九三	一、六〇七、〇〇一・八三〇
刺繍絹布	—	一二、六六二・四二〇	—	—
他の諸絹製品	—	三三〇、九四九・一〇	—	一八三、〇六二・三二〇
計		三七、八三四、四三七・五六〇		三、一、三二、九七三・六四〇

外報

●世界蠶業の大勢（承前）

（六）絹屑物紡績業　去二十九年は該紡績業の產額微弱にして其紡績絲の在荷高は三十年の初に當り頗る減少を示したり是を以て三十年には天鵞絨の製造も燦んならず溥地絹物の製造も年末の頃を除くの外盛んならざりしに拘らず該紡績業は二十九年に比するに大に活況を呈し從て其產額も一層增加を示せり尤も其收益の點より見るときは三十年は其前年程に滿足ならざりしものゝ如し是れ二十九年には相場下落の割合屑絲は其紡績絲よりも甚しかりしにより產額の減少に拘らず大に利益を收むることを得たりしと雖も三十年には原料屑絲の相場は微少の低減を見たるに過ぎざるに其紡績絲は五乃至六分の下落を示し

たるによるなり右兩年紡績絲の平均相場を比較せば左の如し（一基に付）

	三十年	廿九年	三十年の下落
紡績絲、普通用	二百〇	二百〇	〇
同　同	二／二〇〇	一七五〇	五〇
同　同	一九〇〇	二〇〇〇	一〇〇
同　天蓋旅用	二／一四〇	一八〇〇	三四〇
同　同	二／一〇〇	二一〇〇	二〇〇

如此紡績絲は二十九年中既に廉價なりしに三十年に入り更に低落したり右表中兩年間の價格たるや實に低廉の甚しきものなり抑と去二十九年中絹屑物紡績者が著しく其產額を減縮したるは此下落を防止せんが爲めなりしなり斯くして市場に累積せる該絲の在荷高を減少するは實に唯一の有効手段たりしなり若し三十年に於ても此手段を固守したりしなられには或は其相場の回復を見たりしことなるべきも當時に於ける在荷の減少并に巨多ならざるも不斷連續の注文は當業者を勇躍し以て大に其產額を膨脹するに至らしめたり斯くて相場は上昇すること能はざりしも產出の紡績絲は容易に製織業の爲に吸收せられたり而して紡績絲の注文は同年末に至り益々頻繁なりしかば當業者は大に將來の活況に望を屬すると共に相場の回復を期したる所なるが如し

今左に斯業原料の輸出入の狀況を示し以て前文事實の存する所を說述せんに

絹屑絲（未製及梳製の分）輸入輸出表

	輸入 三十年	輸入 廿九年	輸入 比較、增	輸出 三十年	輸出 廿九年
未製絹屑絲	四〇、〇四〇	四〇、六六〇	三四〇	一四、〇〇〇	二、〇〇〇
梳製同	一四、六〇〇	二、六六〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇

輸入に於ては未製梳製共に增加せしこと前表に示すが如し之に反し梳製絹屑絲の輸出は減少を示せり元來屑絲梳製の業は佛國の一工業なるに佛國に於ても亦獨、瑞諸國に於ても屑絲紡績業の盛況を見たる同年に於て佛國に此減少を見るは不可思議のことなり然るに試みに瑞國の稅關輸入表を見るに佛國よりの輸入梳製絹屑絲八十三萬七百基とありて佛國同品の輸出全額を超過すること遙かなり是れ差し輸出者の屑出方不精密なりしより佛國稅關に於て絹屑絲梳製の分を未製の分と混記したるに依ることなるべし故に斯業の實相を觀察するには該輸出高を九十萬基と計算するの至當なるが如しと雖も今假に右稅關の總計に據り該品消費の景況を示さんに三十年中紡績業原料に供せられたる梳製絹屑物の高

	三十年	廿九年
普通製絲所用に供せざる梳國の輸入總高及佛國用絹屑物に對する梳製原料の生產高	三四五、六五八	三三六、〇二三

輸入絹屑物及絹屑絲に對する梳製原料の生產高

計	一、二〇六、〇五四	一、二〇〇、〇五三、五八八
梳製絹屑輸出高	一、七一二、〇二四	一、四四〇、〇二一、〇
差引殘	四八、〇〇〇	七〇七、九〇〇
梳製絹屑絲輸入高	一、二三〇、一、四四〇	一、二〇〇、七七一
依て佛國に殘留したる梳製原料總高	一、七六、九〇〇	一三〇、〇〇〇
同　廿八年分	一、四〇、〇七七、四四	八七、一四〇、七一
同　廿七年分		九一、六二三、七
同　廿六年分		一、一三二、〇〇〇
同　廿五年分		一、四四、九七〇、〇〇〇
		一、三三、九〇〇、〇〇〇

右に表示する如く佛國に殘留したる梳製原料の高は二十九年に於て百三十九萬九千四百七十一基に對し三十年に於ては一百四十萬七千七百六十四基なりき然るに前記稅關絲計の誤算を玆に訂正の上實際三十年の該殘留高を大凡百二十萬基とするも是れ尙ほ最近三ヶ年間の最大數量たるものとす

今左に紡績絹絲の輸出入高を表示せんに（單位は基）

	輸入 三十年	輸入 廿九年	輸出 三十年	輸出 廿九年
フイル、ド、シャツプ Fils De chappe	一七九、〇〇〇	一七二、四〇〇	二四〇、五〇〇	二八〇、〇〇〇
フイル、ド、ブレット Fils de Bourrette	三三、三〇〇	一〇五、一〇〇	一七二、四〇〇	一八九、〇〇〇

一フイル、ド、シャツプは製絲撚絲上の屑物を以てせる紡績絲

一フイル、ド、ブレットは養蠶上の屑絹物即ち玉繭及空繭を以てする紡績絲

右に表示する如く該品は輸入にありては前者少しく增し後者凡そ半を減ぜりと雖も輸出にありては兩者共に減ぜり前文に述べたる如く佛國に於る絹紡績業は專ら內地の需要に應ずるのみなれば假令外國（輸出高あるも是萬々量にして此點に於ては遙に遠く瑞西に及ばざるものとす

即ち瑞西の紡績絹絲輸出高は去二十九年に於て百三萬九千四百基、此價二千二百七十四萬三千法に對し三十年分は百十六萬九千二百基、此價二千三百二十二萬七千法なり是れ佛國の輸出高に四五倍するものなり瑞西國輸出の最大得意先は獨逸なり即ち獨逸が右輸出高を吸收せしこと三十年に於て七十九萬七百基即ち四分の三以上なりとす

要するに絹紡績業は產額の減退を以て二ヶ年を經過したる後市場に堆積せる在荷も空乏に歸したるを以て再び活況を告ぐるに至りたるは即ち其原料消費の著大なると紡績絹絲產出の多額なるとに依て表證せらるゝ所なり相場は少しく低減せしと雖も同年最終の數月間に於ける製絹者よりの重要な注文は大に三十一年に對し禦を厲せしめたるものゝ如し（未完）

◎佛伊兩國養蠶景況（在里昂領事館公報）

佛國　養蠶季節の當初より天氣不良にして且つ寒暖定らず爲に桑葉の發育遲鈍る遲滯し養蠶業は大に困難を感じたり因り期も然前を開くに至れり佛國養蠶氣乾燥さ稍〻春暖を能せしに因り期も然前を開くに至れり佛國養蠶

の進行は甚だ不同にして目下漸く發生を了りたる地方あり又既に第二眠期より第三眠期の間に在り降霜被害地即ちドローム縣下の或る地方殊にローンヌ河畔の地方を除く外は今日までの所好良なる收穫ある見込なるが該被害地方に於ては桑葉供給の不足を恐れ甚多の養蠶家は或は其飼育蠶卵高を減下し或は蠶兒の一部を棄却するに至れり其結果として該地方に於ける本年の收穫高は前年より大に劣る所あるべし(五月二十日附)

前報後に於ける養蠶の進行は先づ好良にして著しき故障あるを聞かず養蠶の大多數は目下第四眠期に在り下セヴェンヌ地方に在りては六月中旬頃新繭の取引開始せらるべき見込なり曩日降霜(三月下旬及四月上旬の)の厲なる被害地たるローンヌ河畔地方に於ける本年の收繭高は固より多少の減少を示すべきことなるも此減少は無害地方に於ける本年の飼育高の増加に因りて大に補償せらるゝ所あるべし(六月三日附)

伊國　トスカン地方は一般既に第三眠期、マルシュ、エミリー、ヴェシシー及フリオール地方は第一眠期より第二眠期の間に在りロンバルデー地方に於ける早成の蠶兒は第二眠期を經過し而して下ピエモン地方は第二眠期に在り同國に於ても氣候不順にして桑葉の發達遲く爲に其不足を恐れ蠶兒の一部分を棄却したる地方なきにあらずと雖も是れ全く例外の少數にして今日までに於ける全體の養蠶は其進行先づ順當なり同國本年の飼育高は昨年に優ること凡そ一割乃至二割の見込なるが如し(五月二十日附)

養蠶の進行も先づ好良にして伊太利中央の養蠶地方即ちトスカンヌ、デュセー、及マルシュに於ける早成の蠶は既に上簇に達しつゝありと雖も第三眠期より第四眠期に在る地方もあり又ピエモン州の如きは今猶ほ一般に二眠期より第三眠期の間に在りシシル島、メシンヌ市場に於ける新繭取引の開始相場は一基凡そ四リラ乃至四リラ二十五なりと傳ふ

ジリー、アブルース及アンドリノーブルに於けるも亦本年の收繭は昨年より多額なる見込なるが如し

當市場に達したる上海發の最近電報に據れば同港本年度の白色生絲輸出額の概算は七里絲六萬梱及機械絲八千梱にして即ち昨年に優ること二萬梱なるの外尚ほ黄色生絲の輸出も大約六千梱を以て數ふべき見込なり(六月二日附)

●伊國養蠶狀況

伊國の養蠶は順當に進行し繭の一部は既に市場に上れり本年の產出は昨年に比すれば少しく多額なるべく繭の平均相場は其品質に依り一基に附き三法六十參乃至四法二十參に至るは容易なり(ヴェニス駐在帝國名譽領事より六月九日附報告)

●佛伊兩國養蠶景況續報

佛、伊兩國の養蠶は前回報告後先づ重大の故障なくして好天氣の下に上簇期を經過し一般將に其終了を告げ目下新繭の取引最中にして佛國に於ける其相場は一基三法四十參乃至四法なり

全世界に於ける本年の收繭高は當初豫想せしまでに巨額に達せざるが如し假令昨年に一層優る所ありとするも一方に於て古絲の殘荷に正しく稀薄を告ぐる所なれば結局市場に生絲の溢出を憂ふるが如きことなかるべしと云ふ(在里昂領事館六月十七日附公報)

●杭州附近夏蠶景況

本年夏蠶の景況は杭州附近に在りては氣候最も適順なるを以て收繭上第一位を占め平均七八分の收入は優に占得したるものゝ如し而して之に亞ぐものは餘杭、湖州にして同地方は氣候俄に酷熱に赴き殊更梅雨の餘響を受け蒸熱のために三四齡に至りて斃死するもの多く平均三四分の出來なり又海寧地方は其飼育の數杭州、餘杭、湖州地方を凌駕するも餘杭、湖州と同樣氣候蒸熱の甚しきのみならず白殭蠶多く傳播して著しき不結果に終り收繭僅に一二分の悲慘に陷れり而して杭州は前記の如き良成績を呈したるに氣候最も適順にして幸に白殭蠶の害を免るゝを得しと雖も而も蝿害を受くること多く爲に民間飼育上に三四分の損害を來せり

目下夏蠶上簇後春蠶絲價其他の價格を列記すれば春蠶絲價百兩(一貫目)に附き平均三十二弗、乾繭(餘杭及湖州等)平均百弗、桑價(每百斤)平均一弗、蠶價(同上)平均十五仙、農夫(一年雇切、杭州、餘杭、湖州地方)平均二十四弗、男工(日雇、食料備主負擔)平均十仙、女工(日雇、食料備主負擔)平均五仙、繰絲工(一日)二十仙、添足繰絲繭十五顆より四五十顆なり(在杭州領事館七月十八日附公報)

●清國蠶業改良に關する稟議

六月二十二日刊行の上海申報は春蠶の最も隆盛なる江南浙江各地に猖獗を逞くせる蠶病を驅除して國家經濟上の危險を防禦すべき件に關し上海稅務司葛より南洋大臣に提出したる稟議書を掲載したり其大要左の如し

査するに中國蠶業の改良に附きては曩に西曆千八百八十九年中總稅務司より前任浙江海關稅務司康に命するに調査整頓の事を以てしたるが惜むべし當時各省の官民は其意を諒して襄助を加へざりしが故に遂に之を果さゞりし蓋し其時浙江兩省の養蠶地方には尙ほ蠶病を發生せざる處多く亦已に發生せるも病勢猶ほ輕淺なりしなり今は則ち各省傳染殆ど遍く幾ど無病の蠶なし若し再び因循坐視するときは此中國最重要の產業は勢必ず收拾すべからず啻に地方に徵收する正稅及釐金即ち國家の歲入の重要部分を失却するのみならず兩省人民の從來恃みて以て日に富庶に臻る所のもの亦將に此より反て日に其窮乏を見んとす海外の事例を探るに佛蘭西に於ては四十年前蠶業衰敗して幾ど種を絕つに至る即ち今日の中國蠶業と情形相似たり此時同國に博士巴司得なる者あり法を設けて該國の蠶病を撲滅したり其法は他なし顯微鏡を用ひて蛾の體を檢查し無病健康の蠶のみを留存して孳殖せしむるなり今江浙蠶病の害の如きは輕重の分なくんばあらずと雖とも要するに已に傳染せざる處なし絲市の衰敗恐らくは將に問ふべからざるもの即ち此に在り調査するに十數年前に當りては淨絲一擔を紡製するに乾繭三擔を用ふるのみなりしが昨年に至りては同量の淨絲を紡製するに乾繭五擔の多きを要し今年は恐らくは六擔乃至六擔五十斤を要せんとす近年養蠶の結果毎に不良にして繭少く價貴く而して性質又劣り爲に中國の繭絲を紡績する內外の各製絲場は大損を招かざるなし且つ已に廢業したるもの多し抑も從前世界の絲市は皆中國を以て首位を占めたり故に利權は其掌握に在りて操縱自由なりし而して今は則ち然らず蓋し現在海外に於ける產絲國は甚だ多きに因り中國の絲市に對する權は此に由りて漸く失却せり一たび養蠶不作の年に遇へば政府の賦課する正稅及釐金既に嵩重なれば絲價昂騰し各國の絲商は皆改て他國に往きて仕入を爲せり是れ豈に眼前中國の一大宗の買賣は人のために奪はるゝにあらずや今政府は各省地方の大員に嚴飭し竭力整頓するにあらざれば此頹勢を挽回することは能はざるなり

惟ふに今中國繭絲の正稅及釐金は已に嵩重に屬し再び加ふべきなし加ふれば即ち必ず銷售の路を塞がん故に別に改良の經費を籌備するを要す苟も能く此蠶病を掃滅し得たる後は各省每年の產額は必ず從前に倍加すべく隨て各省に收入する稅釐の額も倍加すべきなり其時に至らば絲價も自ら低廉と爲り外國と頡頏する能はざるを患へず即ち我利權を回復するに難からず獨は此に止らざるなり我絲價既に低落すれば各國の絲商は必ず進で活潑に買收すべく中國の蠶業は一層擴張せらるべし此れ實に一定不易の理にして商務上提要の圖なりとす

何等の善法を施用して蠶病を治すべきかは今中國蠶子の病は已に甚だ重くして且つ廣汎なれば尤も迅速に著手せざるべからず又尤も蠶業に明通せる者を選用して其執行者と爲さざるべからず故に著手の最先に屬するもの二あり一は各養蠶地方の蠶病傳染の情形を調査すべし一は各處の養蠶家に敎ふるに佛人巴司得の蛾を揀び良種を留むるの法を以てすべし今江浙兩省の蠶子は既に悉く病に罹れりとすれば各地方互に幇助し整頓するを利とす故に兩省官民力を協せて會同辦理するは洵に一舉兩得の策とすなほ本稅務司の

現に擬定せる商法の大界を陳述すべし

劇場の結に商官各々失ゞ養蠶公院一箇處を設立し各ゝ一の專門の外國蠶業抄師を聘し一院の事を掌管せしめ外にも蠶業に明達せる外國紳士一員を延きて兩院の總理と爲し江浙養蠶公院の事宜は均しく其管に歸せしむべし而て兩院の學生及傳習員は三箇年を以て卒業し各ゝ自立して該業を經營するに足らしめんとす公院に關する經費は兩官合計年額銀一萬二千兩とし絲商及養蠶家以外の官民義捐金を募集し之を支辦すべし此計畫にして許容せらるゝときは本員は總稅務司に詳報し相當の助力を與ふることを辭せず兩院に必要の人材の如きは之を供給すべし

本稅務司は近頃內外の生絲商人等の組合に接し昨年中絲市の實際敗壞の極に達したる情形を知悉したり深く憂ふる中國の蠶業は爰に救ふべからざるの勢あり而も其首として巨患を受くる者は特に江浙兩省の人民のみにあらざるこを是れ亦一種の計を進むる所以なり翔ゝ中國目下の情況に國勢の頽靡せるに因りて外人の輕侮を招けるものにして之を救ふは實に產業を振興し國民自强の勝を為すに如くなるはなし即ち斯蠶業改良の擧の如き其最要なるものとす直に准可を承け速に着手せんには本年に在りても著ゝ其効を見ん得ん（下略）

●雜報

●技藝委員囑託

大日本蠶絲會にては七月七日左の諸氏に技藝委員を囑託せり（氏名の上に△印を附せるは任期滿限再任の諸氏なり）（氏名いろは順）

△伊藤小左衛門　△高木三郎
伊藤精一　土屋泰
市川延次郎　△練木喜三
今西直次郎　△農學士中村鼎
△八田達也　△町田菊次郎
△橋本重兵衛　△松永伍作
△理學士堀正太郎　△理學博士佐々木忠二郎
△農學士本多岩次郎　△齋藤孝
△星野長太郎　△農學博士澤野淳
金子孫亞衛門　△農學士三吉米熊
△農學博士菅野平右衛門　△芝山直清
△農學士横井時敬　△下田伊左衛門
△農學士田原休之丞　△横井興五右衛門
△高橋信貞

●島根支會設立

島根縣下に於ける蠶絲業有志諸氏が大日本蠶絲會島根支會設立の計畫あることは既に記載せしが七月七日附を以て左の如く設立認可を申請せられたり

大日本蠶絲會島根支會設立認可願

貴會規則第二十七條に基き今回島根支會設立致度候間御認可相成度別紙會員名簿相添此段申請候也

明治三十二年七月七日

大日本蠶絲會島根支會
發起人　山口彌太郎
外十八名

大日本蠶絲會幹事長岡殺殿

而して本會は七月十二日左の如く認可せり

明治三十二年七月七日附申請大日本蠶絲會島根支會設立の件認可す

但支會規則決定役員選擧の上は屆出づべし

明治三十二年七月十二日

大日本蠶絲會印

●蠶業講習所人工養蠶成績

左に記載するものは本年五月二十日より東京蠶業講習所に於て試驗せられたる横田人工養蠶飼育の成績なり錄して以て當業者の一覽に供す

人工養蠶飼育試驗成績概要

本所に於ては人工養蠶法の適否を試驗せん爲め器械を購入し且つ昨年同法傳習所卒業生二名を臨時傭入し實地飼育を擔任せしめ五月二十日を以て着手せり試驗に供せし種類及飼育中の經過概略左の如し

飼育經過表

種別	目標	蟻量	稚立月日	老熟月日	飼育日數	器內平均 溫度	器內平均 濕度	給桑量	給桑量
自一號支那種	玉	一匁	五月二十日午前十時	六月十日午前七時	廿日廿一時間	八三、〇	七四、三	一八四、〇	一二三、六二八、〇
二號支那種	三	匁	五月十一日午後二時	六月六日午後十二時	十六日十時間	八三、八	七四、九	一六八	四八、四七七、〇
三號支那種	二	匁	五月廿二日午後二時	六月十日午後十一時	十九日九時間	八三、三	七四、九	一六六	三七、二四〇、〇
甲中巢	三	匁	五月廿三日午後二時						
乙中巢	一匁五分	五月廿二日午後二時	六月十二日午後五時	廿一日三時間		八二、二	七三、七	一八九	四〇、四一九、五
	一匁五分	五月廿二日午後二時	六月十四日午後二時	廿三日九時間		八一、二	七六、六	一七八	五二、三六九、五

收繭表

各種蠶兒の經過及收繭量は前表の如し尚蟻量一匁に對する給桑量收繭幷に給桑一貫目に對する上繭重量の割合を示せば左の如し

種別＼目標	給桑量	收繭量 上繭 容量	收繭量 上繭 重量	收繭量 上繭 一升の頭數	收繭量 屑繭 容量	收繭量 屑繭 重量	收繭量 總量 容量	收繭量 總量 重量	給桑一貫匁に對する上繭 容量	給桑一貫匁に對する上繭 重量
自玉	二三、六二八〇匁	一〇四匁	八七一匁	三七三	三〇二	二五五匁	一〇、八	一、二〇八匁	一四五、〇匁	一、二〇八匁
一號支那種	一六、一五九、〇	二六六	二〇〇三	四〇二	四六、〇	三、五一	一八、〇	一五四	三三〇、〇	二、五〇八
二號支那種	一八、六二〇、〇	一一九	九一一	三三六	四一、〇	三三二	八、〇	五九	一六八、〇	一、三〇二
甲中巢	二六、九四六、〇	一〇八	九四〇	三三〇	四〇、〇	三七三	二〇、〇	一七〇	一六八、〇	一、四八三
乙中巢	三四、九一三、〇	一六六	一五二四	二九二	二五、〇	一八八	一九、〇	一五二	二二〇、〇	一、八六四
合計	一、一〇、二六六、〇	七六三	六、二四九	三四七	一八、二、二	一、四九九	七五、八	六一五	一〇、〇二一、〇	八、三六五
平均	二四〇五三、二									

飼育中に於ては各種共に一眠已來不眠蠶及蠶蠶を出すこと多く就中三號支那種の如きは四眠起納食分して甲乙となし甲は引續き器内に於て飼育し乙は通常室内に移し本所標準表に據り飼育し其優劣を比較せしに其結果左の如し

種別＼目標	四眠起頭數	結繭蠶數	不結繭蠶數
甲中巢	一三、〇〇〇頭	五、五五九頭	七、四四一頭
乙中巢	一三、〇〇〇	六、七三一	六、二六九

二回後に於て到底結繭の見込なきを以て放棄するの止むを得ざるに至れり其他の種類も亦上族後に於て更に臍蠶となるもの多く即ち簇の邊緣を徘徊し三日目に至りて腐爛するもの殆ど三割強に及ぶものあり

中巢は四眠起二回の給桑後其頭數を調査し之を二

●京都蠶業講習所傳習生募集

京都蠶業講習所に於て本科傳習生二十五名募集せられ其志願者は履歴書體格檢査證を添へ地方廳を經て同所長宛にて願書差出すべき旨七月二十日廣告せられたり志願者の心得は前號本欄の蠶業講習所傳習生募集の項參看せらるべし

●東京蠶業講習所卒業證書授與式

東京蠶業講習所に於て七月二十八日本科第二回及別科第三回傳習生卒業證書授與式を擧行せられたり其次第は當日午前十時第一號鈴を以て卒業生及傳習生諸氏着席同十時半第二號鈴を以て來賓及職員諸氏着席せらるゝや澤野所長は農商務大臣を式場に導き次で式の開始を報じ本科卒業生四十二人、別科卒業生五十一人に卒業證書を授與し次で農務局長の寄贈に係る賞品（農業經濟論一部宛）を本科優等卒業生六人別科優等卒業生三人に付與せられ畢て所長の式辭、農商務大臣の告辭、農務局長の演述あり、本科卒業生總代松下憲三朗、別科卒業生總代遠藤潔の二氏各答辭を朗讀せられ次で來賓岡生絲檢査所長祝文を朗讀せられ茲に於て式全く終れり式場は中央の柱二本に杉の青葉を以て絲門の形を造り周圍には帷幕を回らして之を裝ひたり夫より澤野所長、本多傳習部長其他職員諸氏は來賓一同を別室に誘はれ酒果の饗應あり而して同室も亦中央に絲門の形を設け其上部に生徒諸氏の意匠に成りたる生絲及繭を以て造られたる扁額を掲げ一面には纖度絲を以て「日の本の光りましけり絲のつや」の俳句を顯はし一面には繭にて「祝卒業」の三字を顯はせり又別に蠶病中最も恐るべき病毒を防禦軍と見做し消毒器顯微鏡等を以て攻擊軍とし配置能く飾り立て殊に雪中の戰爭の樣

に造りしは意匠斬新著意巧妙來賓諸氏をして頗る其趣向に感ぜしめたり

又蠶室蠶具及製絲場其他蠶絲業に關する器具機械等を式の前後に於て隨意に縱覽せしめられ掛員は懇切に一々説明を爲し親者を益するところあらしめたり殊に本日は連日の蒸熱に似ず天氣朗晴南風涼を送り爽快云ふべからず當日の來賓は曾根農商務大臣、和田農務局長、美濃部秘書官、手島東京工業學校長、岡横濱生絲檢査所長、紫藤農產課長、佐々木理學博士、同伸會社長高木三郎、農商工高等會議員佐野理八氏等を始め朝野の紳士徒の父兄及保證人等無慮百有餘名に達せり如斯盛況は同所開設以來未だ嘗て見ざる所なるべし是實に斯業進歩の現徴と云ふべし豈欣喜に堪へざらんや本會の理事も幸に招請を辱ふし其席末に加ふるを得たるは深く感謝に堪へざる所なり即ち卒業生諸氏の氏名及大臣以下の告辭等を左に錄して以て會員諸君に紹介せんとす

本科（四十二名）

京都　松下憲三朗
兵庫　衣笠勇之助
三重　大森孫十郎
高知　下元鹿之助
佐賀　陣内孝一
秋田　池田榮太郎
島根　三谷徹
栃木　田原益
長野　關馬
京都　望月愿
向伸
愿吾
茨城　吉田三造
兵庫　井上隆
新潟　竹内與三郎
佐賀　岩坪時藏
京都　最勝寺
山梨　七澤菊馬
山形　岡部藤藏
和歌山　田代龍
愛媛　岡部貫一
和歌山　益田半次郎
長野　折井正雄
高知　池義信
長野　大澤四郎
千葉　田邊傳
岩手　吉田太郎
東京　町田豐
山形　遠藤潔
知多　加藤藤八
高知　中島寛喜
兵庫　井上孝三
新潟　土田由藏
千葉　金次
福島　佐藤角兵衛
岡山　相田勝一
秋田　中島清武
青森　福田省太郎
山口　德田實也
川崎　田中榮
石川　山川金三郎
静岡　鹿島儀三郎
山形　櫻本幸太郎
宮城　鬼兒島櫻三郎
岩崎　鈴木喜三郎
埼玉　成島由松
茨城　村澤一雄
長野　小熊正勇
新潟　種子田淳一
鹿兒島　朝倉貞人
大分
愛知　森作吉
京都　荒川鐵藏
埼玉　鈴木萬七
群馬　山田鶴治
栃木　田中武雄
福島　儀吉

別科（五十一名）

廣島　藤井吉次郎
福岡　阿久津長十郎
栃木　石井由松
埼玉　金子健藏
新潟　横山安吉
宮城　村上正豐
高知　鷹森倭文太
鳥取　進木孝三郎
熊本　河野才喜
岩手　梅津善次郎
佐賀　伊東甚三
福岡　角也
熊本　宮城
小島　三郎
大坂　阪巳榮次
山形　眞木十郎
廣島　世羅六兵衛
長崎　北村繁夫
岐阜　安江森松
山形　五十嵐惣次郎
澤野東京蠶業講習所長の式辭

農商務大臣閣下來賓諸君本日本所本科生第二回、別科生第三回の卒業證書授與式を擧行するに當り時恰も酷暑の候に際するにも拘はらず茲に貴廳の榮を辱ふしたるは本官の謹謝に堪へざる所なり抑ゝ農商務省の廳設に係る蠶業試驗傳習の組織は屢ゝ小變更ありしと雖も其變遷の大要を述ぶれば去明治十七年麹町區内山下町に蠶病試驗場を設け甫めて微粒子病の研究に從事せしが明治十九年蠶種檢査規則の發布と共に檢査員養成の必要を生じ其試驗場を當西ケ原に移し蠶業に於ける各種試驗の傍ら各府縣より生徒を募集し微粒子病檢査法の傳習を開始せり而して明治二十三年に至り從來實行し來りたる右傳習の組織を改め一般養蠶上に於ける傳習の途を開き同時に其名稱を蠶業試驗場と改めたり然るに世上斯業の進歩は漸次高尚なる學理と實地とを併せ授くるの必要を生ぜしを以て明治二十九年に至り蠶業講習所官制の發布を見るに及べり爾來該傳習生を募集し孜々其講習をなし以て今日あるを致せり而して本所は全國を通じて一箇所なりしが本邦に於ける蠶業の程度各地大に其趣を異にせると且つ業務の擴張とによりて更に一箇所を增設するの必要を認め本年四月京都府下に於て本所同樣のものを新設するに至れり爰を以て本所は本年六月より東京蠶業講習所と改稱するに至れり且つ此改稱と共に特に各位に報告を要すべきものは其入學試驗の科程を高めたること是なり右の如く蠶業の傳習は着々其歩を進め今回は即ち

本所開設以來本科生第二回、別科生第三回の卒業證書授與式を擧行するに至れり而して今回卒業の人員は本科四十二名、別科五十一名にして本所開設以來のものを合計すれば本科八十四名、別科百五十八名の卒業生を出せり尙本所開設以前に於ける卒業生は合計一千百六十二名にして之に本所の卒業生を合すれば實に一千四百〇四名の多きに達せり而して是等卒業生は各其專門の道に於て能く斯業の改良發達に從事せるも皆く全國の希望を充すには尙其前途頗る遠きを憂ゆ又是等卒業生の內清國の傳聘に應じ彼の地蠶桑の敎習に從事せるものの四名あり又卒業生中既習の科目に就き研究せんとするものゝ爲めに特に研究科なるものを設けたるに今日まで此科を修めたるもの十九名あり其內本所に於て滿足と認め證明書を附與せるもの十名、現に研究中のもの三名あり其他外國人にして本所に於て養蠶業を修めたるもの清國人一名、韓國人三名(內一名婦人)あり

右は即ち本所に於ける講習事蹟の大要なり次に卒業生諸子に一言すべきものあり

諸子は本所敎官の下にありて螢雪の勞を積み本所規定の課程を卒へ考試厳完くして本日茲に農商務大臣閣下を始め朝野貴賓の前に於て卒業證書を受くるの榮を荷はれたるは誠に慶賀至極なりとす

諸子は本所に入學するの前既に斯業上相當の經驗を有し本所に入學するの後は現時の蠶業界に於て最も改良進歩せる所の學理と實地を習得したるものなり諸子は本日の卒業證書授與式に依て斯る新の學術を修得したることを社會に紹介せられたり社會は諸子に依て蠶絲業の改良進歩せんことを冀望しつゝあるを以て諸子の責任は重且大なりと謂ふべし

諸子が社會に於て實際に涉り諸子が今日有する所の學術を應用するに至りては種々の困難障礙の存在せることを覺悟せざるべからず諸子は宜しく品行を正ふし志操を高くして正實に熱心に耐忍勤勉以て是等の困難障礙に打勝ち苟も小成に安んずることなく諸子一身の爲め國家の爲め益〻進んで學術を研究し且つ經驗を累ね諸子が將來に負へる責任を全ふし本所養成の目的に背かざらんことを是れ本官等の切に希望する所なり一言を述べて以て式辭となす

曾禰農商務大臣の告辭

蠶絲は夙に本邦輸出品の大宗に屬し其一盛一衰は延て我國家經濟の消長に關す是れ政府が多年汲々として其奬勵保護に盡瘁する所以にして本所の設ある亦是故に外ならず

顧近我蠶絲業の進歩頗る見るべきものありと雖も其技術に於て尙改良を要するもの極めて多く未だ以て宇內市場に雄飛するに足らず況や近く西隣に一大競爭國を存するに於てゐや蠶絲業の前途亦益〻多事なりといふべし是時に當り諸子は本所の敎科を卒へ今や將に社會に出で多年其修得したる技能を實際に施さんとす是れ獨り以て諸子の榮譽となすべきのみならず亦我蠶業界の慶事ならずや

然りと雖も諸子が今日の榮譽は即ち諸子が將來の責任を發生する所以なり諸子豈苟安して可ならんや宜く奬勵努力益〻技術の蘊奧を究め經驗自得の效を積み以て一般當業者の模範となり以て斯業の改良發達に貢獻する所あるべし是れ一は以て本所の敎養に酬ひ一は以て諸子が榮達を圖る所以の途なり諸子夫れ旃を勉めよ一言以て祝詞に代ふ

和田農務局長の演說

蠶業講習所成りて茲に三年本日を以て本科第二回、別科第三回の卒業式を擧ゐるに至れり是れ斯業の爲め將た國家の爲に洵に欣喜に堪へざる所なりとす乃ち一言を述べて祝詞に代へん

卒業生諸子、諸子は已に斯業上相當の素養と經驗とを有し今又本所規定の學科を修め以て其業を卒へらる將來能く其責任を盡し以て社會の望に副ふ所あるべきは余の深く信ずる所なり

然りと雖も諸子が將來は既往の如く單純なるものにあらず社會の風波は荒くして學窗の穩かなるに似ず社會の行路は嶮難にして研學の趣味あるに似ず諸子更に非常の熱心と勉强とを以て事に當り堅忍不拔以て其效を永遠に期するにあらずんば焉んぞ能く此波濤を凌ぎ此嶮坂を超ゆるを得んや況や又駸々として一日も停止する所なき學術の進歩に伴ふことを得んや

抑〻蠶絲は本邦首要の物產にして維新以來頗る長足の進歩を爲せりと雖も其基礎未だ堅實ならず從て海外の信用亦未だ鞏固ならず動もすれば即ち桑圃の米田に變ずるを見、日本生絲擯斥の聲を海外に聞く苟も事に茲に從ふものは豈孳々として盡瘁せざるべけんや諸子今や出でゝ此術に當らんとす余は特に諸子に望まざるべからざるものあり曰く蠶種の一定を期すること曰く桑園と收蠶とを恰適ならしむること曰く完全なる殺蛹乾燥法を行ふこと是なり蠶種一定せざれは同一なる多量の生絲を製すること能はず本邦生絲の常に伊佛生絲に一步を讓る所以のもの洵に茲にあり桑園と收蠶と相恰適せざれは如何に一定の蠶種を養ふも中道にして桑葉不足の爲め之を放棄する止むを得ざるに至ることあり完全なる殺蛹乾燥の法を行はざれは如何に一定の蠶種を收め如何に桑園の豐かなるも其得たる繭をして或は腐敗に傾けしめ或は焦燥に失せ

しめ遂に良絲を得る能はざるに至らん諸子希くは全力を擧げて此三點に盡し以て之が奏效を期せよ今や西勢の東漸するや日に急にして富源の開發を要すること頗る切なるを覺ゆ諸子は此時運に際會し將に出でゝ邦業の爲め竭す所あらんとす諸子今後の言行は一般斯業の上に影響すること決して尠少なりとせず其前途や多望、其責任や大なりと謂ふべし諸子は既に學術に於て其業を了れりと雖も實地應用の實は自今益〻大なり切に望むらくは深く自ら省み厚く自ら重んじ砥勵奮發其責任のある所を盡し以て今日諸子が得有せる光榮をして有終の美をなさしめんことを聊か希望を述べて諸子が前途を祝す

本科卒業生總代松下憲三朗氏の答辭

維時明治三十二年七月二十八日我東京蠶業講習所第二回本科卒業證書授與式の盛典を擧げられ農商務大臣閣下を始め貴賓の貴臨を忝ふし賜ふに優渥なる貴言詞と懇篤なる規箴を以てせらる生等の光榮何物か之に加へん回顧すれば入所以來爰に二ケ年諄々たる教諭の下に孜々蠶業の術を究め終に此榮典に浴するを得るは是れ全く教官諸公の慇懃なる薫陶の賜に外ならず寔に感激の至りに堪へざるなり催ふに今や改正條約は實施せられ通商貿易日に頻繁なるの時に當て生等身を實業界に委するもの奮勵努力以て益〻之が發達を力めざるべからず其責や重く其任や大なりと謂ふべし生等は今將に漸く灣頭を出でゝ實業海に掉さゝんとするものなり颱風の船を揺き怒濤の進行を妨ぐるは蓋し航海の常なりとす前途遼遠唯願る生等の非才劣なる或は師恩の深厚に酬ゆる全からざらんことを然りと雖も一意諸賢の訓戒を服膺し忍耐撓まず勇敢屈せず鞠躬盡瘁誓て斯業の隆盛を圖り以て富國の實を擧げんことを期す是れ生等が大臣閣下の高諭に應へ併せて教官諸賢の鴻恩に酬ひんとするの微意なり聊か餞辭を陳し謹で奉答す

別科卒業生總代遠藤潔氏の答辭

茲に本日の佳辰を以て東京蠶業講習所別科第三回卒業式を擧行せらるゝに際し農商務大臣閣下を始め顯官貴賓の貴臨を忝ふし賜ふに優渥なる訓誡の辭を以てせらる生等の幸榮何事か之に加へん顧ふに生等の今日ある偏に嚴肅なる所長閣下の督勵と懇篤なる教官各位の薫陶とに因らずんばあらず然る本邦蠶業界の狀態を觀察すれば改良進歩べきの業勝げて數ふべからず抑〻蠶業の隆衰は直ちに國運の消長に基因するものにして之を改善する一歩なれば國家を益するも亦一歩にして之を擴張する十歩なれば民力を强ふするも亦十歩なるを知らば吾人蠶業家を以て自ら任ずるもの豈一日も

安眠を貪るの秋ならんや生等各位の高論を拜聽し孜々黽勉道んで改良の要路に當り一致協力斯業に全力を注ぎ以て今日の高恩に報ひ併せて國運の增進を圖らん事を期す不肖謬別科卒業生を代表し聊か餞辭を陳して答辭に代ふ

岡横濱生絲檢査所長の祝辭

抑〻本邦に於ける百般事業の消長は之を維新以來四十年間の事蹟に徵するときは其歷史の長短と進歩の遲速とは常に逆比例の關係を有するものゝ如し即ち古き歷史を有するものは其進歩遲くして新しき輸入に係るものは之に反して常に早し今何に據りて斯の如き現象を呈せるやを稽ふるに職として學術の有無如何に歸せずんはあらず即ち新來の事業には必ず學術の之に伴ふものあるも舊來の事業には習慣これ貴ぶの陋風を蟬脫する能はざるが爲めのみ

蠶絲業に於ては此感みなきか其概に大に發達すべくして未だ十分の發達をなさざるもの實に之が爲に外ならざるを信ずるなり

農商務省亦夙に玆に見るありて去明治十七年以來斯業に關する學術の教習に著手せられ時勢の進歩と斯業の發達とに伴ひ屢〻其規模を擴張し組織を整頓し千數百名の生徒を養成せられたりしが遂に本所の創設を見るに至れり以來又孜々として學術兼用の士を養成せられ今日に及んでは已に本科に於て二回、別科に於て三回の卒業生を出すに至れりと是れ實に余輩が斯業の爲に欣喜措く能はざる所なりとす

卒業生諸士は或は實業に從事せらるゝもあるべく或は斯業の教育に從事せらるゝもあるべく又或は官職に從はるゝ等其前途悉く同一ならざるべしと雖も其進むべき途の如何に拘はらず曾て所に於て修得せられたる斬新の學術を以て之を舊來の業務に應用し其改むべきは之を改め其樂つべきは之を樂て又採るべきは之を採り以て益〻本邦蠶絲の品質を精良にし益〻其產額を巨大にし以て斯業の基礎をして萬々歲たらしめんことを是れ余輩が諸氏に囑望して已まざる所なり希くは諸士夫れ之を勵めよ謹で餞辭を陳して祝す

❶本年度の蠶絲業費

本年度に於ける各府縣勸業費中蠶絲業に關するもの合計二十九萬千七十一圓十四錢八厘にして其中一萬圓以上のものを擧ぐれば左の如し

長野縣	蠶種檢査	四一、六七五・九六〇
	獎勵	二五一・四五〇
福島縣	蠶種檢査	一八、四一一・二九三
埼玉縣	蠶種檢査	一四、一四〇・九七〇

宮城縣　蠶種檢査
蠶絲業組合補助
群馬縣　蠶種檢査
山形縣　蠶種檢査
京都府　蠶種檢査
蠶業講習所補助

一〇、四七三・三〇〇
二、九四四・七〇〇
一二、六八〇・七三〇
一一、〇四二・二九〇
五、三一三・三〇〇
五、三五〇・〇〇〇

而して最少額即ち千圓以下のものは神奈川縣の蠶種檢査費九百三十二圓四錢四厘と大阪府の蠶種檢査費八百六十七圓十七錢九厘なり

●蠶絲に關する參考品の陳列

新潟縣廳構内に新鄕の定設蠶種檢査所には蠶絲業に關する參考品を備へ斯業の改良を企圖する爲め本年縣下の蠶種製造家及養蠶家の飼育せし最も良成績と認めたるものを各家より一種凡十五六類を該所に備ふべき筈なりと云ふ

●新潟縣自家用蠶種檢査

新潟縣に於ては蠶種の改良を圖り養蠶家を奬勵せんが爲め縣令を以て蠶種取締規則を發布し爾來自家蠶種をも該規則に基き檢査を勵行したる結果一昨年に至るまでの成績に徴し年一年に其病毒を減殺したるは掩ふべからざる事實にして其收繭額の如きも檢査施行前の揀立蠶種に對し增加したる狀況なるに客年四月より蠶種檢査實施に附ては一時中止の委となり折角數年該檢査を施行し微粒子病毒減少の効果も水泡に屬するの傾きあり本年五月縣令を以て自家蠶種檢査規則を發布せられたるは必竟當業者の希望により出たる自家用蠶種檢査費も相當支出する事に可決せり然りと雖も强制を以て之を行ふものにあらず製造者の注意に依るものにして養蠶家に無毒の蠶種を飼育せしめ收繭を增加せんとするに外ならざれば自家用蠶種製造者は審て檢査を受くる樣奬勵相成度旨各郡市役所へ通牒ありたりと

●氷上郡蠶業學校の廢止

兵庫縣氷上郡蠶業組合立簡易蠶業學校の廢止を認可し且つ同校に交付の補助金を國庫補助法第六條但書に依り明治三十一年度限廢止する旨七月五日文部省より指令せられたるが同校は同縣蠶業組合規則に依りて成立したるものなるに該規則は昨年に至りて廢止せられ隨て同組合も公認せられざることゝなりしにより已むを得ず廢校に至りしが生徒は既に卒業せしなりと

●羽前の北蒐社

羽前北蒐社養蠶傳習所は七月十五日傳習事業を結了し同十八日修業證書授與式を擧行せり社長松田宗兵衛氏證書を授與し社員及修業生中の板垣岩治、青柳復三、秋業長十郎の三氏に養蠶教師の適任證書を付與し了て蠶業上將來の方針に關し注意を與へ次に郡長の祝辭、修業生總代の答辭ありて式を終へ更に協議會を開き明年度に於て郡事業として共同種蠶飼育場を設立せしむる事、蠶絲同業組合事業として小組合に共同蠶種貯藏函を設備せしむる事及組合をして蠶の種類一定を實行せしむる事等を議定し蠶業上の談話を試み各十二分の氣焰を吐きて散會せりと

●蠶業講習生の勉强

島根縣能義郡農會の設立なる能義蠶業講習所にては養蠶及蠶種製造法の實習結了後は專ら學理の講習を爲し授業は午前七時より午後六時までの規定なるも科目多きを以て豫定の期日には講了し能はざるにより午前六時より午後十時迄十六時間の授業を爲したること十餘日ありしも生徒は斯る長時間の教授に少しも屈せざるのみならず試驗の切迫せし頃は徹夜の温習を爲せし者もあり其結果好眞にして七月二十日修業證書を得たりと云ふ

●東海五縣聯合共進會

本月一日より十五日間靜岡縣濱松に開設する同會は農產物、水產物、工藝品の各出品點數三萬餘點に達し農產部中滿、生絲は千餘點にして同部の審査部長は農學博士玉利喜造氏に審査長は大日本蠶絲會技藝委員國中文助、同伊藤小左衛門の二氏に審査員は同特別會員毛利正雄、同青木彌七、同通常會員寺尾吕太郎の三氏に就き囑託せられたりと云ふ

●奈良縣滿外二品の品評會

本月十五日より十日間奈良市に於て滿、生絲、蠶種品評會を開き且つ斯新なる器具、器械其の他有益なる種々の參考品を蒐集して斯業改良の資に供する爲め四方有志家の出品を望み其有益なるものは運送料を同會にて支辨し尙ほ營業品は當業者に對して販賣の紹介をせらるゝと云ふ

●沼田地方の滿商入

上州沼田地方にては從來滿買と稱し村内の繭を代價十分の一二位を手附として持出し殘金は一ヶ月目とか或は二ヶ月の市待ちて買ひたしと唱へ百圓位の金も五六回位に支拂ふ如きも有樣は繭買にあらずして滿借なりしが本年は各地より多數の買人入來り物品と引換へ殘金等の面倒なきを以て僅か位の差にては成るべく其買人に賣却せしにより地方の繭借商人は退ふまれたる姿なりしと云ふ

●神戸生絲檢査所月數

神戸生絲檢査所に於て生絲貿易商並に地方生絲製產者の請求に應じ六月中檢査を施行せられしもの左の如し

洋糸	横濱	横濱	内國人
洋糸	横濱	横濱	外國人
洋糸	横濱	横濱	合計
洋糸	横濱	神戸	内國人
洋糸	横濱	神戸	外國人
洋糸	横濱	神戸	合計
洋糸	横濱	合計	
洋糸	神戸	内國人	
洋糸	神戸	外國人	
洋糸	神戸	合計	
洋糸	合計		
洋糸	内國人		
洋糸	外國人		
洋糸	合計		
洋糸	横濱	横濱	内國人
洋糸	横濱	横濱	外國人
洋糸	横濱	横濱	合計
洋糸	横濱	神戸	内國人
洋糸	横濱	神戸	外國人
洋糸	横濱	神戸	合計
洋糸	横濱	合計	
洋糸	神戸	内國人	
洋糸	神戸	外國人	
洋糸	神戸	合計	
洋糸	合計		
洋糸	内國人		
洋糸	外國人		
洋糸	合計		

●高知縣產出の生絲に就て

高知縣商業會議所にては同縣產出の生絲に就き過般横濱商業會議所の意見を徵したるに此程左の如く回

答ありしと

貴縣産出生絲に關し品質の好悪に就ては頗る良好なるも物品少量なるが爲め小口物視せられ購買者少く一定したる價値を有せずと云ふも可なるが如し、包裝に就ては改良を要する點なし、昨年貴縣より輸送の生絲は僅に七十個位にして全國生絲産地の比較上未だ頗る幼稚たるを免れざれば販賣の手續等御報知致候とも實際行はれ難く却て不利益の恐れなき能はず、海外輸出の景況及市價等は前述の如く生絲の産地として貴縣は兎に角未だ幼稚たるを免れざるが爲め海外輸出上に關し評論すべき程度に至らず

右の外御參考となるべき點は貴縣は生絲少量なる數の輸送ありて其裝置寸法等區々に出るの點販路價價に障害あり將來の御方針として長野縣其他有名の産地品を凌駕すべき優等品を製し見本とし一等品とすべき物を屬して二等品とし三等品たるべきものを二等品中に入れ同等同樣の物を多くすること便益ならん云々

●生絲包紙の改良

甲州草薙社にては從來横濱へ輸出する生絲は普通の桐油紙にて之を包みしにより充分に雨水の浸入を防ぐこと能はざるの虞れありしが奥州より産出せる防水紙を用ふることに改めしに降雨の爲に生絲の濡るゝことなく又物品を損する等のことなしと云ふ

●諏訪の製絲業

信州諏訪郡に於ける本年七月一日現在の製絲業に關する統計なりと云ふを聞くに製絲工場百六十一、釜數一萬三百二十八、工女九千八百三十三人、工男八百三十三人にして釜數は昨年に比し二百個内外の增加なりと

●昨年度の輸出生絲

昨年六月より本年五月に至る一ヶ年間に横濱より海外に輸出せし生絲の數量は五萬八百七十八俵、和量五百二十五萬四千七百四十斤餘にして其輸出先を區別すれば左の如くなりと

米國	三、一七〇、三七七俵
佛國	一、七九〇、〇一三
伊國	二二五、一七〇
英國	四一、五三八
露國	三七、〇一九
瑞西	六二五

●七月中生絲及屑物の集散

七月中横濱に於ける生絲及屑物の集散は左の如し

生絲輸出　四千五百八十九俵　七千九百六個
賣込　百五十四個
屑物輸出

入荷　一萬六千七百十八個　六百十個
發送　同入荷　二千四百九十五個

賣込　百五十四個　發送　三個

●生絲入荷の豫想

本年横濱へ入荷となるべき生絲の數量は果して幾個に達すべきか容易に豫定し能はざるも春蠶收穫の割合と市場の趨勢より推せば十三四萬個の間なるべしと認むる所なるも例年横濱へ出荷の數量は海外市場の形勢に因ると雖も内地機業の盛衰に關係を有するものゝ如し本年は各地春蠶の良好なりしと絲價騰貴の爲め一般農家をして意外の收益を得しを以て兩三年控へ來りし必要品の購買力を增加し機業界も色めきたれば隨て地方に吸收せらるゝ生索の數量も亦例年の比にあらざるべし果して然らば其出荷も豫想に達せざるべしと云ふ

●歐米向生絲の需用

歐米向生絲の需要は器械太節、中細、細絲より坐繰、折返絲に至るまで大抵其品種の賣行に依りて區別し是は歐洲向なり此絲は米國向なりとの事を識別する得たれども本年の如きは彼の博覽會の氣構へより注文の夥多なるのみならず其需要も種々雜多なるものありて到底例年に做すること能はざるも歐洲向の需要は大に巽樣の觀あるに至り即ち米向として製出せし信州器械二番より一番半乃至一番物格にも買氣あり殊に歐洲向の大輸出が僅に米向專門の百六十八番を除くの外揃ひも揃ふて歐洲へ輸出せし等其需要は將來に於て或は此の名殘を留めんかに思はれたり

果して何れなるかは後日の趨勢に鑑みんのみ（東京日々新聞）

●露國へ輸出生絲の好望

從來本邦より海外へ輸出の生絲は主として米佛等の諸國にして露國へ輸出するは至て少なく且つ輒まりたる荷口は殆ど皆無なりしに先頃横濱の原商店は露國商人の囑托に依り三井製絲百梱を買入れ直に同國へ輸出せしが尚ほ同國の生絲貿易は前途好望なりといふ

●越後生絲需用地の變更

新潟縣下にて産出する生絲は從來横濱に向け輸出するもの最も多數なりしに一兩年前より福井へ輸出するもの追ゝ增加し本年の如きは福井向きの方横濱の上に出づるに至りたりと云ふ

●綾羽二重注文の拒絶

横濱の生絲市場は更なり各地羽二重の機業地は巴里萬國大博覽會の影響を受けて一般に景氣の引立ちたるが中にも福井、富山、金澤地方の機屋は歐洲向綾羽二重の先物約定注文を握りて本年十一月渡もの迄は何れも注文に滿ちて新規の注文にして此期間内に製出するものは勢ひ拒絶するの外止を得ざるに至りしが其後續々と注文入込み本年中即ち十二月一杯迄の約定を取結びたる高は明細には知りがたきも綾羽二重

のみにて實に二萬二千疋に近き多數なるも爾來横濱の商館へは隨續追注文の達するあり或は照會返電の達する等より中には個人の機屋へ直接に申込む向もありしと雖も何れも十二分に引受けたる事として到底新規約定の成立するは覺束なき有樣なりと

●人事彙報

▲高橋信貞氏は藤田百次郎氏と共に歐米各國生絲の狀況視察の爲め横濱の原合名會社より派遣せらるゝに付により製絲上に關する調査を望まるゝ向には精々其調査を爲して報告せらるゝ筈なりと云ふ

▲清國湖北省武昌府農務學堂蠶桑教師に招聘せられ過般彼の地に赴かれたる峯村喜藏、中西留應の二氏は器具器械の購入其他種々の要務ありて此程歸朝せられたりしが本月下旬頃再び赴任せらるゝ筈なりといふ

▲愛知縣幡豆郡大寶村鳥居嘉三郎氏は夙に地方蠶業の改良發達に汲々倦まず或は農民に模範を示して勸誘する等陰に陽に殆ど盡粹至らざる所なかりしが去る二十九年軍籍に入り目下靜岡衛戍病院附となり服役中と雖も傍ら蠶業の研究に忘りなく加之鄉里蠶業の振興に配意なしつゝありと

●余任辭令

正六位勳五等岡毅氏は七月十日從五位に從七位大林雄也、同堀正太郎の二氏は正七位に叙せらる

●會員諸件

左の諸氏は去七月中入會又は死亡せられたり

▲入會（百二十二名）

○特別會員

群馬　山本久治
東京　齋藤孝
同　千葉田邊傳太郎
○通常會員
同　鈴木幾久
東京　町田悅太
同　阿久津長十郎
同　栃木岡本幹雄
同　守屋鄉
同　小泉太郎吉
同　亀山愛造
神奈川　土志田佐助
同　鈴木角藏
同　小野勇逸
同　三重奥村勝助
同　服部鳶司
同　小野平次郎
長崎　岩本一郎
同　田代鶴次郎
新潟　齋藤巖六
同　小野二平
同　水戸倉藏
同　吉野庄太郎
同　太田利八
同　河合榮吉
埼玉　狩野嘉一郎
同　瀨山具三郎
同　若林喜平
同　大島庄六
同　三ッ木理三郎
同　原謙之助
長野　東原畊三
同　鹽澤新九郎
同　吉田久平
同　片山愚治
群馬　柴山仙太郎

長野　吉川興治
同　江塚善三
同　森田善八
同　井澤森次郎
宮城　小田邊信成
同　三浦篤三郎
同　毛利庄兵衛
同　八巻仁右衛門
同　大寺暉
同　小野運藏
同　金澤豐次郎
同　寺島百治
同　鈴木善吉
同　高橋且次郎
同　蓬田勇太郎
同　緒方清
同　森慶藏
同　星冥藏
同　長尾文太夫
同　續喜三郎
同　遠藤八右衛門
同　滝田珪次郎
同　山本丈吉
宮城　油井牧三郎
同　榊元兵江
同　小川喜久治
同　高橋浪江
同　根元直三郎
同　遠藤佛次郎
同　横山良作
同　一條福三郎
同　後藤善治
同　岩本文治
同　佐藤忠三郎
同　蓬田鶴之進
同　星利助
同　鈴木佐藤
同　高橋吉郎
山形　花輪庄吉
同　本宮德四郎
同　佐藤
同　瀧口清十郎
同　仁藤庄六
同　山口永吉
島根　矢田房太郎
同　川井文次郎
同　金山新六
同　伊藤幾重郎
島根　加田龜五郎
同　川上彌助
同　大屋實
同　和田喜三郎
同　市川豐章
同　西村右一
同　勝部東齊
同　高野敬義
同　安達宮太
同　中澤治兵衛
同　岡山平井
同　安部倫四郎
同　小野延次郎
同　岡崎佐吉
同　柳井保次郎
同　城市貞三郎
同　宅野忠助
同　尾木彌右衛門
同　高知內川壹水
同　大谷德平
同　中井力太郎
同　大谷繁次郎
同　北海道安藤小一
島根　植木勢十郎
同　稻崎彙吉
同　池野伊助
同　高橋丑太郎
同　太田房次郎
同　椙義久
同　宇津爲太
同　遠藤宏
同　永原龍之助
同　大吉
同　篠原瀧三郎
同　德島篠原正和
同　愛媛宮田儀三郎
同　喜多郡農會
同　宮崎鈴木傳藏
同　鈴木長市

有の内にて齋藤（孝）氏は本多岩次郎氏。町田・若林、小野勇逸及び下三名の六氏は荒窪格太郎氏紹介せられ守屋・岩本、水戸・瀨山・梶山・山本（久治）・鈴木（幾久）・岡本・瀧村・篠原、喜多郡農會の十一氏は各自に申込まれ小泉氏は高村現次郎氏。土志田氏は鴨志田仙藏氏。鈴

本（角藏）氏は佐野安太郎氏、服部三ツ木の二氏は浦部其太郎氏。齋藤（巖）氏は弘宜喜一郎氏。太田氏は新潟支會。狩野氏は原四郎・雷藤（巖）氏は金山誠一郎氏。田邊・阿久津の二氏は二宮鶴松氏。亀山氏は亀山誠一郎氏。奥村氏は桑本美輔氏。吉野氏は鈴木勝太郎氏。河合氏は西遠支會。中村氏は山梨縣支會。東原氏及其下八氏は下伊那蠶種業組合事務所。小田邊氏及以下八名、藤田勇太郎氏及以下六名の十六氏は宮城支會。高橋・且次郎氏は手塚虎雄氏。添田氏及以下十六氏は諸四謙受氏。花輪氏及其下三氏は伊東鱒雄氏。矢田氏及下三十二氏は山口鋼太郎、野津林市の二氏。永島氏は荷川常四郎氏。平井氏は毛利正雄氏。櫻師神氏は田鶴谷岩郎氏。宮田氏は大竹作之助氏。内川氏は井上正茂氏。鈴木（博）及鈴木（長市）の二氏は山川生藏氏。安藤氏は大塚武支部長も紹介ぜられたり

▲死亡（二名）

○通常會員

岐阜縣　細江省吾

山形縣　大川連太

●寄附金受領廣告

一金五圓　靜岡縣　内山喜平君

一金壹圓　山口縣　内藤亮一君

右本會へ寄附せられたり

大日本蠶絲會

◉大日本蠶絲會品評會規則（摘要）

●大日本蠶絲會會員たる者は何人にても出品することを得　但し大日本蠶絲會會員外と雖も篤志者の出品は特に之を諾することあるべし●出品は總て出品人自家の產製に限るものとす●出品すること に關する圖書、物品等を參考品として寄附せられたるものとす但出品人の於て返戻を望まるゝものは相當代價を得て返付すべし●出品は必ず一品運送費は其出品の名稱、數量及住所氏名會員の種類、風土、收量、又は其出品に關する由來、飼養、製造、損益、從來受賞の有無、發明等に係る解說を別紙に詳記し又は出品人の自辨を出すべし●出品は審査委員之を審査し其優等なる者には左の四等に區別し褒賞を贈與す（一等賞、賞杯（二等賞）同（三等賞、賞品（四等賞）褒狀）●會員外の出品には賞狀を與へ賞品を與へざるものとす●一人數品を出すものにして二品以上優等の品評を得たるものあるときは其最優等の分に限り賞品を添ふるものとす●出品は再審査を請ひ或はしたる後其審査に不服を唱へ又は再審査を附與せ賞を返還することを得ず●前條に觸るゝ者は褒賞を返還することを許さず

大日本蠶絲會

本會に入會せらるゝには左の事項を承知して申込まるべし

一住所氏名を詳記したる入會書に一ヶ月金拾錢の計算を以て入會せらるゝ月より向ふ一ヶ年分以上の會費を添へて申込まるべし

一會報は入會を申込まれたる其月の分より發送すべし

但し入會以前の會報を要望せらるゝときは一冊に付金拾錢を餘收したる後之を送付すべし

一會費其他の金員を本會に送らるゝとき郵便爲替又小爲替證書は拂渡所を神田淺路町とし且つ小爲替證書の表面右の方「差出人は此處に受取人の宿所氏名を記して送るべし」とある處に「東京神田區錦町三丁目一番地大日本蠶絲會」と記入せらるべし、左の方「受取人宿所氏名調印」とある處には何も記入すべからず

爲替振込に不便なる土地なれば郵便切手一割增にて送らるべし

通運便に託し現金にて送らるゝ時は必ず配達賃納濟にせらるべし

一會費金は毎年規定の通り（翌年の分は前年十二月中に）前納せらるべし

一氏名住所等を變更せられたるときは其都度直に本會に通知せらるべし

一退會せらるゝときは必ず其月までの會費を拂込まれたる後にあらざれば之を了諾せず

一會員中死亡せられたるときは其家族又は其地方の會員より本會に通知せらるべし

一質問書は半紙を用ひ一紙に一件を限り字體は成るべく明瞭に記し且つ何郡縣何郡村大日本蠶絲會何會員某と署名し又其質問を要する物件方言のみにして本名判然せざるときは成るべく現品を添へて送らるべし

一會費金を官庇したる後猶出金せられざる者は之を本分の義務を怠されざる者と看做し本會規則に據り除名すべし

此心得は會員諸君常に能く了知せらるゝは勿論他人の入會を誘導せらるゝの際には殊に之を示されむことを要す

大日本蠶絲會

正七位　高橋信貞君撰

世界各國産繭標本寫眞

全一冊　郵稅金四錢

繭は生絲の前身にして生絲は繭の後身なり故に繭佳良なれば生絲も亦佳麗ならざるべからず人智之を知るが爲め繭種に至る迄の品位も亦隨て雜駁たるを免れざるは諸君の熟知せらるゝ所なり汎くこゝに方今繭の品位を定むるや勿論なるを以て採集せられたる各種の標本に就き其形狀を寫眞に解説し而して各種に產地稱呼付額面及び長短適否等を詳記せられたる繭の良否は密に志ある諸君は坐右に缺くべからざる眞書なり

第二版

蠶體病理

附蠶種檢査法註解

養蠶ノ業ハ近年益々擴張ノ勢アリト雖モ往々大失敗ヲ來コト少カラズ要スルニ之レ病毎育中種々ノ病豫蔵累積防止セムモ亦因ルベシ而シテ之レ常適當ナル病毎ノ發生ヲ收ストハ蠶通ノ基ヲ欲シ蠶ノ病ノ開エアルヲ施ス其繭ノ收穫ノ學理ニ基キ精ノ因徵ニ成リシ最本書ハ蠶體ノ病ノ原ニ筆ニ近ノ學ノ過ヲ詳ニ説ク法又各地方ノ狀ニ照シテ適切ナル防ノ方法ニ示ク多年ノ經驗ニ基キ亦大ニ無用ノ養ノ失敗ノ跡ヲ除豫侯經驅ノ故ニ此況ノ書ニ據ル經ヲ得用ノ勞ヲ省キ其利益ヲ多ク到綿密ノ校閲ヲ經ヲ費ヤサズ周ノ益ノ多ク殊ニ佐々木博士ノ精論ノ章平且一々精巧ナレ說明ノ書解苦ムコト丁寧ニ毎條ノ叮嚀ニ就テ圖加ノ蠶種檢査法及同施行細則ニ供シ此他同法ニ關シテ製種家ノ參考ニ資スベキ項目ハ勿論女工ノ心得ヲ施シ註釋ヲ加ヘタル以何人モ了解シ易キ事ヲ揭ケテ普通養蠶家ニ一般ニ亦大ニ便益ヲ享ケラルベキヲ信ズ世ノ蠶業家ニ志アルノ士切ニ購讀アランコトヲ請フ

農科大學教授理學博士　佐々木忠二郎先生校閲
蠶業講習所講師農學士　河原次郎先生著述

實價金五錢　郵稅金四錢

米國シカゴ府閑龍世界大博覽會出品　繭生絲解説

實價十錢　郵稅貳錢

本書は斯業に精通の聲れある高橋信貞君が米國シカゴ府に開かれたる世界博覽會出品品繭生絲の解説として現に於ける本邦蠶業の沿革に起し次て本邦に於ける蠶の種類なる種類に就き其得失を論じ延ひて當時の蠶及び製糸法を評叙し而して我日本國民の蠶業に於ける歩趨を説き終に蠶及び繭の貿易の盛況に論及し終に我が國の將來の發展の基礎たるべき事を説き以て其大綱を示し以て斯業に關係ある諸氏諸士に御參考に供したるものなり

高橋信貞君編述

大日本蠶絲業家名錄

右は今回蠶界有力諸氏の勸告に隨ひ弊社主任となり紳士錄又は商工人名簿等の體裁に倣ひ出版し本邦蠶絲業家交通の便に供せんとす同感の士は左の條項御了知の上續々申込ありたしことを希望す

一本書に登載すべきは桑園製糸業者及蠶具販賣肥料類種繭標等の其他住所氏名職業は必ず記載すべし

一申込者五百名以上は一行分字數に相當の金を前納すべし（二號活字二行分字數に十名以上は一行五錢引）

一申込者五百名以上は一行分字數に相當の金を前納すべし（二號活字二行分字數に十名以上は一行五錢引）

一本書は編成の順序に從ひ府縣小字順に之を養蠶製糸業者の業別とし一類中行數多きを始めとし同行のものは順次に及ぼし掲ぐ

一本書は遞送の順序に從ひ府縣小字順に之を養蠶製糸業者の業別とし一類中行數多きを始めとし同行のものは順次に及ぼし掲ぐ

一本書は全國諸官廳及び蠶業家集會所に供へて登載者事業擴張の廣告たるべく又一には帝國の命脈たる蠶絲業者の紀念品として後世に遺すべきものたり實に本書に登載せられたる蠶絲業家の死活に關するとも云ふべし至急御申込ありて其今日の蠶絲業に盡したるとの勞名を千載に傳んとを希望す

●發行所　東京市日本橋區箔屋町十四番地　蠶蟲業新報社

禀告

本會員諸君にして前書の購求を望まるゝ向は各規定の代價と郵稅とを添へ御申込あらば直に遞送す

大日本蠶絲會

蠶業新報

每月一回十五日發行第七十四號七月十五日發兌

一部郵稅共七錢五厘　十二部前金同八十四錢

本號要目◉口繪寫眞○故栽原李衛君肖像◉社説○日本生絲の聲價を高むるは本年にあり◉時論○絹物販路擴張改良策領事能勢長五郎○山梨縣管見生の線木喜三先生に質すを讀む○鬼澤興市○撚絲事業前途の好望高宮增太郎◉實驗○養蠶發育異理圖解田島武平○蠶種及蠶審査法古屋景晴○蠶種の研究義綱社○練木氏の蠶業談本報記者◉蠶具○新發明桑扱器（圖入）◉漫錄○養蠶詩類古散人○蠶業家を勵ますの歌井堂蠶史◉雜陳○製絲所の大庭遠水堅曹◉批評○日本蠶病論○日本蠶業革進策○害蟲驅除要覽◉史傳○故栽原李衛氏傳◉統計○本年三四月蠶絲類輸出數量及價額◉資料○徵粒子病試驗福島縣蠶業學校○問答○蠶蟀白粉附着の件答○土室貯桑の件答○蠶種の件答○上簇に關する件答○質問新件四件◉雜報廿六件◉附錄○栽桑講義

蠶業新報合本

各總目錄付總クロース洋裝金文字入

◉明治廿七年分
◉明治廿八年分
◉明治廿九年分
◉明治三十年分
◉明治卅一年分

◉廿七八年分代價六拾錢宛郵稅十二錢◉廿九年分拾五部總代價七十五錢郵稅一部拾四錢◉卅年分代價八十四錢郵稅十二錢卅一年分拾三部綴代價九十四錢郵稅十四錢小包なれは各二百匁以下

發行所　東京日本橋箔屋町拾四番地　蠶業新報社

特許蠶種貯藏器

蠶種貯藏の忽にすべからざるは一般當業者の認むる處茲に弊舍の喋々を要せず而して蠶種を貯藏するに於て尤も簡便にして安全なるは特許貯藏器に如くものなきは數年來當業者諸君の實驗に徵して瞭なれば詳細を知らんと欲する諸君に對しては御回報を怠らざるとし自書自贊をなさゞるべし弊舍は季節に際しての混雜を避くする爲め本月中限直接御注文に**壹割引**を以て御注文に應ず對し規定價格の御用の方は至急申込あれ（代金未拂込者は入帳せず季限後無割引）

桑苗木大販賣

例年の通り早中晩各種販賣す本年は已に豫約御注文相成たる向不少尙益々多かるべき摸樣に付御用の方は此際速に豫約御注文御利益に可有之候御照會次第定價表郵送可仕候

秋蠶原論

戸所林次郎先生著　特別減價郵稅共三十錢

秋蠶の書少なきにあらずと雖も其安全に豐果を得るの眞理を實際に説明せる本書の如き他に一もなし速に御購讀ありて累々たる美繭を多收せられよ

發賣元　東京市日本橋區箔屋町十四番地　丸山舍

秋蠶種四化蠶種蠶書蠶具一式大販賣目錄無代進呈

春蠶種 八重姬。小石丸

販賣仕候御一報次第定價表呈

石川縣河北郡金津村　實力館

再版

日本蠶病論

農科大學敎授理學博士佐々木忠二郎先生校閱
在大學院蠶病專攻農學士大森順造先生著

寫眞版及精密ナル木版五十餘挿入紙質最上等總クロース製金文字入菊版三百四十頁餘實價金一圓五十錢郵稅十二錢
初版五千部賣切レ再版出來

日本蠶業革進策

在大學院農學士大森順造先生
茨城縣蠶種檢査所長岩田次郎先生合著

洋裝美本金文字入
菊版四百十餘頁
正價金七十五錢郵稅八錢

發行所　茨城縣北相馬郡高野村　蠶業之燈社

大取次所
東京日本橋箔屋町十四　丸山舍
全京橋南傳馬町二丁目　有隣堂
全麻布本村町　學農社
全麹町有樂町三　大日本實業學會

牧畜雜誌

每月一回定期發行
第百六十五號七月十五日發兌

定價　一冊金拾錢　六冊金五拾五錢　十二冊金一圓　郵稅不要

發行所　東京市神田區錦町三丁目　牧畜雜誌社

大日本織物協會

東京下谷二長町五十二

本會は明治十八年の創立にて學者と染織業に關係ある商工業者千數百名相集りて斯道の進歩を圖る唯一の團體なり尙會務を擴張する爲め規則を改め評議員を置き漸次刷新の功を擧げん爲め每月會員に分つ會報の體裁を改良したり此際有志の士は入會あらんことを乞ふ
○會費一年壹圓五拾錢規則書は郵券貳錢會報見本は拾錢添申込次第進呈すべし

日本四化蠶改良合資會社四化蠶種販賣廣告

寳玉（虫質强壯解舒容易に纎維に細太なく光澤優美 壹升三百顆以内絲量拾匁を有する改良種なり）

第二化蠶種　五月廿六日より六月五日迄製種
第三化蠶種　七月十日より七月三十日迄製種
第四化蠶種　八月十日より九月十日迄製種
（産卵より九日乃至十一日目にして發生）

◉代金御同送なき御申込は御斷り申候發生期間短期なるを以て敏速を要すればなり

代價　撰繭撰蛾特別製全面付壹枚金壹圓也一蛾撰框製百蛾金壹圓二拾五錢也

割引法　拾枚以上壹割引二拾枚以上二割引五十枚以上は御照會次第直に回答すべし

出張所　八月十五日より八月三十日迄下總國北相馬郡取手町停車場前に出張所を置く

見習生　二十名を募集す望のものは町村役場の身元證明を添へ申込むべし七月十八日迄に當會社に著すべし滯在中の養育は當會社に於て負擔す

代金振込郵便局　蠶種希望のものは社長岩田太郎名宛にて下總國北相馬郡守谷郵便局に振込むべし

電信略號（カシ）

茨城縣北相馬郡高野村九十二番地
日本四化蠶改良合資會社
社長　**岩田太郎**
業務擔當人　**小島米吉**

蠶業家諸君に急告す

夫れ秋蠶飼育たるや蠶業中最も利益大なることは世人の知らるゝ所なるが殊に我靜岡縣は四化蠶種本場と稱せらるゝ處にして年々各地へ輸出すること萬千を以て數ふるに足れりと然れども本年より全國一般（或一二縣を除くの外）蠶種檢査法の施行せらるゝに至り隨て春蠶原種及ひ越年すへき夏秋蠶原種は蛾躰檢査を行ふと雖も春蠶製絲用種及自家用種或は夏秋蠶種の如きは無檢査にして病毒の繁殖を放任するの模樣なり夏秋蠶の如きは春蠶と異なり特に病毒の繁殖力の大なることは業已に諸君の了承せらるゝ所たり故に原種に於て斯く嚴重に且つ親切なる檢査を施行せられ無毒の原種を飼育したりとて必す無毒蠶種を得ること能はさるは自家用種及ひ夏秋蠶種に有毒のものあるか故に遺傳して繁殖力を強からしむるによる故に此際宜敷夏秋蠶種は其期に於て充分嚴重に蛾躰檢査をなし製種用に供し以て養蠶家をして失敗を少なからしむるは製種家の急務なりと信す又世間往々夏秋蠶の失敗を言ふものあるも是未だ充分其深きを探らさるの致す所失敗の重なる原因は氣候の激變にも因ると雖も多くは蠶種の不良運搬の不注意飼育術の不完全なるに起因するものたり之を以て本館の蠶種は原種を毎化毎に蛾躰檢査をなし悉皆病毒を除くは勿論玉繭下等繭を除去し又産卵後の運搬に殊に注意し蠶の生理に害なき樣充分の處置をなし充分遺憾なきを保す世の奸商輩の如く産卵直ちに運搬し或は發生に至る迄運搬するか如きは斷して本館の爲さゝる處世の養蠶家諸君多少に不拘左の代金を添へ至急御申込あらむことを希望す御申込の順次に依り五百名丈に限り弊舘四化生飼育法を無代價にて送呈す

四化生蠶種々類 **大巢角又** 蠶種製造期日八月三日より九月五日まで連日製造蠶種代價平附全面一枚壹圓貳拾錢框製百蛾壹圓五拾錢（五枚以上一割引七枚以上一割五分引廿枚以上二割引のこと）爲替は遠江氣賀局受取人引佐郡井伊谷村三嶽内山喜平

今般大日本蠶絲會員に限り前代金の一割引にて差上其内五百枚より得たる處の實費を除き其殘額金を大日本蠶絲會へ寄附し以て全國蠶業發達の一助たらんことを期す

靜岡縣引佐郡井伊谷村三嶽
四化蠶種專門
大日本蠶絲會員
有爲館
舘主　内山喜平

本會々員靜岡縣引佐郡井伊谷村内山喜平氏より前記の通り寄附せらるへき旨申請有之候に付き該蠶種を要望せらるゝ向は直接同氏に向ひ申込あるへし此旨會員諸君に告く

明治三十二年七月
大日本蠶絲會

謹告

佐々木理學博士　三吉農學士
大森農學士　清水昆蟲學者　實驗證明附

一蟻酸アルデヒート簡便安全消毒燈　壹具　金拾貳圓五拾錢

一メチールアルコール　壹磅　金參拾五錢

一蟻酸アルデヒート液散布器械　壹具　金四圓八拾錢

一蟻酸アルデヒート液　壹瓶　金壹圓

此簡便安全消毒燈並ニアルデヒート液散布器械ニテ蠶室蠶具ヲ消毒スルトキハ蠶病菌ハ直チニ殺滅スルモノナレバ蠶業家ニテハ豫メ蠶室蠶具共消毒シ蠶兒ヲ飼育セバ蠶病菌ノ發生スル憂ヒナキ國益器械ナリ乞フ御購求御實驗ノ上本器ノ虛ナラザルヲ了シ賜ハンヿヲ謹告ス

製造發賣元　東京市日本橋區本町三丁目十四番地
エ、ライツ氏顯微鏡一手販賣
醫療理學器械問屋
田中杢次郎

特約販賣店　東京市日本橋區本町三丁目十八番地
調痢丸本舖
各國藥種問屋
松本市左衛門

特約販賣店　東京市赤坂區青山南町五丁目七十番地
獸醫醫療器械
理化學器械蠶業用具
中澤仲次郎

特許上簇器普及委員募集

養蠶ノ終ヲ全フスルハ上簇中ニ在リ而テ上簇器ノ發明ハ爾來種々アリト雖モ實用ニ適スルモノ尠シ今般農商務大臣ヨリ十五年ノ特許ヲ賜ハリタル余カ發明上簇器ハ蓋シ上簇器中ノ大王ニシテ養蠶ノ終ヲ全フスルニ庶幾シ其製作簡易一見何人ニテモ容易ニ製作セラル材料ハ竹木篠葦等何レノ土地ニテモ容易ニ且低廉ニ得ラル效益ハ第一繭ノ光澤解舒ヲ善良ニシ兼テ絲量ヲ增加シ第二同功繭汚繭薄皮繭等ノ發生ヲ減少シ從テ繭形ヲ整齊ス第三上簇及收繭ノ際時間ト勞力トヲ節減シ（本理ハ一人ニテ五人乃至十人ノ仕事ヲ爲ス）第四貯繭輕便ニシテ且永年ノ使用ニ堪ユ以上ノ效益アルニ付繭一石ヲ收ムル養蠶家ニテ一回之ヲ使用セハ從來ノ簇ニ比シ五圓以上十圓內外ノ利益多シ本器ハ製作使用權分與ヲ契約ス郵券參錢送レハ詳細通知ス

右上簇器ヲ普及スル爲一町村若クハ數町村ニ委員一名ヲ置ク委員ニハ一年金貳百圓乃至參百圓ノ報酬ヲ賜與ス望者ハ郵券參錢送レハ規則書ヲ呈ス

春蠶種　又普靑熟角又支那種代價壹圓廿錢十枚以上御引ス原種用百蛾金貳圓

秋蠶種　七月廿日ヨリ九月上旬迄數回製造ス代價壹枚壹圓廿錢十枚以上割引ス

大和國添上郡
田村蠶業專門
田村多門

紙本商店販賣品廣告

顯微鏡

ライヘルト氏
ライツ氏
ツアイス氏

貳拾五倍以上壹千五百倍迄各種　附屬品一切

右御注文の節は御指定の官衙に於て檢定を請ひ其證を附し御需用に應じ候故其精巧なるは確實に候

一蠶業器具類　壹式
一蠶業書籍類　壹式

右諸品何れも精々廉價誠實且つ迅速に御用辨可仕候間多少に拘はらず御用向御付度此段御願上候

農商務省
蠶業講習所　御用達
東京府下王子
五拾貳番地
紙本治太郎

横濱生絲檢査所技師前檢査部長
正七位高橋信貞先生講述

訂正増補 生絲繭蠶種審査法

實價 郵税共金三拾九錢

前農商務大臣正三位勳二等金子堅太郎君題辭
農商務次官從四位勳四等藤田七郎君序文
横濱生絲檢査所長正六位勳五等岡毅君序文
前横濱生絲檢査所技師檢査部長正七位勳六等高橋信貞著述

製絲法

全一冊　洋裝美本　四十有餘の細圖入
實價壹圓　郵税拾錢

本書は本邦機械製絲場の嚆矢たりし富岡製絲所の創設に際し業を佛人ポールブリユナ氏に受け爾來該所の業務を擔當すること九年後農商務省新置以來同省に在りて專ら蠶絲の業務に鞅掌せられ之か改善を嚮導し天下に呼號すること二十餘年蠶絲界に雷名を轟かされたる扶桑蠶史高橋信貞君か積年の經驗を學理に徵し諸種の熱議を以てものされたる今古未發の良書なり其緒論さしては世界蠶絲業の大勢を詳論し結論には本邦蠶絲家の取るへき將來の方針を斷論し章を分つ十二、款を設くる六十餘而して其技術に入りては四十有餘の細圖を挿入して一々之か得失を詳論し製絲工場地の撰定より工業經濟の收支豫算、創業費償還の方法に至るまて細大一さして備らさるなし堂今斯請ふて之を刊し實價を以て廣く世に頒たんとす邦內の蠶絲業者は勿論苟も意を邦家の富源に留むるの諸氏請ふ速に御購讀あらんことを　明文堂主敬白

本會々員諸君にして前書の購求を望まるゝ向は實價及郵税を添へ御申込みあらば直に發送すべし

大日本蠶絲會

合資會社中野蠶業社廣告

本社ハ北信ノ東隅ニ位スル中野市街ニ在リ其地四面悉ク桑園ヲ以テ圍繞シ氣候西寒土地高燥ニシテ石礫薄地ナルヲ以テ斯業ニ適ス是レヲ以テ一度此地ヲ踏査スル蠶業家ハ是レソ眞ニ信州第一ノ蠶種本塲ナレト稱賛セサルモノナシ斯ノ如クナルカ故ニ蠶兒ノ強壯ナルハ學理ノ證明スル處敢テ贅言ニアラサルナリ然ルニ如斯眞土ヨリ產出スル蠶種カ天下ニ其名聲ヲ發揚スルヲ得サリシ原因ハ抑明治ノ初年本邦ノ蠶種カ伊佛諸邦ヘ輸出セラレシ當時我地方モ亦一度極メテ強盛ナリシモ尋テ其反響トシテ一時甚シク衰弱セシニ由ル是ヲ以テ爾後同志相謀リ本社ヲ成立シ學理ト熱練ノ調和ヲ得タル飼育ト精良完美ノ製造トヲナスニ至リ本縣知事ノ視察トシテ來社ヲ始メ各府縣ヨリ農會長或ハ飼育家物代ノ參觀殆ト四拾餘名ノ多キニ達ス而シテ其時々相應ノ蠶種注文アリ又ハ郵便ニテ申込等アッテ其數殆ト五千貳百七拾貳枚ニ及ヒ初年ノ本社製造領ハ漸ク六千弱ノ所ナレハ除ス所僅少故希望ノ養蠶家諸君ハ至急ノ申込ヲ祈ル

前陳ノ如ク初年ヨリ繁盛ナラシムルモ業務ヲ正直ニナス本社カ規定ヲ天理ノ保護スルモノト社員一同益々業務ニ勉ム併テ注文アリタル諸君ニ謝シ倘本年製絲家ニ絲質及デニール試驗ヲ經テ優等ナル種類定價ヲ報告ス

春蠶ノ部　中野錦、小石丸、又昔、岩丸、信濃錦、銀白●定價五分は一枚九十錢　六分付一圓二十錢　全面付一圓五十錢但シ紙數ニヨリ割引ス

夏秋蠶ノ部　白龍、きト蠶、大草

信濃下高井郡中野町

合資會社中野蠶業社

本多蠶業講習所技師

●清國蠶絲業調査復命書　全

寫眞版木版圖入紙數貳百餘頁
實價金四拾錢郵税六錢

清國產繭の增減輸出製絲の隆替は我貿易業に至大の關係あるを以て之を查察し之を利用するの方法を劃するは朝野士人の希企する所而かも其資料に乏しきを如何せん本書は第一に總論を上げ夫より蠶絲輸出の現況附內地に於ける蠶絲繭の集散生絲實買の現況、製絲業、養蠶業附採種法、栽桑業、蠶業敎育の類項を詳說し結論には邦人の反省すべき要點を揭く經世の士は固より蠶業家諸彦必讀の眞著なり

●松永清國蠶業視察復命書は實價五十錢郵税六錢にて共に參考の料にすべし

		實價	郵税
◎蠶桑實驗說	松永伍作先生著述	五十錢	六錢
◎再訂増補養蠶術講義	逸見恒三郎先生著述	同四十錢	同四錢
◎競進社養蠶法 養蠶實驗說		同一圓廿錢	同十錢
◎蠶躰生理學	古屋景晴君著	同二十錢	同二錢
◎膿蠶	佐々木忠二郎先生著	同二十五錢	同二錢
◎蠶の蛆害		同二十三錢	同二錢
◎三版 微粒子病肉眼鑑定法		同三十錢	同四錢
◎蠶桑病理問答	練木喜三先生應答	同三十二錢	同四錢
◎蠶事報告(自一號至十五號)	農商務省御刊行	同五圓七錢	同六十四錢
◎栽業實驗錄		同四十五錢	同四錢
●桑樹萎縮病調査報告(自一號至三號)		同一圓五十錢	同十六錢
◎原理應用 栽桑新書	長沼辨次郎君著	同七十五錢	同八錢
◎貯繭製絲改良策	安東潜君著	同五十錢	同四錢
◎養蠶製絲蠶業簿記法	鈴木爲吉君編	同六十八錢	同八錢
◎二化蠶業全書	田村兵司君著	同二十錢	同二錢

發兌　東京市京橋區南傳馬町二丁目　穴山篤太郎

昆蟲學專攻 獨乙國留學 農學士 松村松年先生著

日本害蟲篇

（豫約募集）

上卷出來 菊判上下全二冊 正價金參圓也 郵稅實金貳拾錢

生民の畏るべきは凶荒饑饉より甚しきはなし而して凶荒饑饉の因は多く害蟲に在り近歲害蟲發生の爲めに重要作物不稔を告げ穀價非常に暴騰したるが如き其一斑を徴すべし各府縣此に見る所あり官民頻りに害蟲驅除に苦心し地方農學校も亦特に害蟲の一科を設けて其方法を講究するありと雖も憾らくは本邦斯學猶は未だ幼稚にして害蟲に關する完全の成書なし本會之を慨き今回昆蟲學專攻を以て有名なる松村松年氏を煩はすに本書の著述を以てし害蟲に關する智識を我農界に普及し以て夫の畏る可き凶荒饑饉の患害を未萠に豫防せんと欲す斯學研究の士左記の項目により至急申込あれ

明治三十二年七月十日

札幌農學校學藝會

（第一）本書ノ部類左ノ如シ

◎緒論 ◎總論◎第一章害蟲◎用語ノ說明◎益蟲◎昆蟲の變態◎室內飼育法◎野外飼育法◎第一成蟲◎第二幼蟲◎第三蛹

◎各論 蟲類◎第二章粘蟲類◎第三章烏蠋類◎第四章尺蠖蟲類◎第五章夜盜蟲類◎第六章葉捲蟲及芽蟲類◎第七章螟蛉類◎第八章螟蟲類◎第九章莢蟲類◎第十章蟊蟲類◎第十一章木蠹蟲類◎第十二章債避蟲類◎第十三章食葉甲蟲類◎第十四章地蚤類◎第十五章針金蟲類◎第十六章黑蝸類◎第十七章蝨類◎第十八章蚜蟲類◎第十九章浮塵子類◎第二十章稻ノ蓟馬蟲類◎第二十一章椿象類◎第廿二章蝗蟲類◎第廿三章室內害蟲類

（第二）本書ハ菊判洋裝上下全二冊紙數五百餘頁ニシテ紙質印刷共ニ鮮明（日本昆蟲學ノ體裁ニ從フ）殊ニ大特色トスベキモノハ作物害蟲ノ經過習性（成蟲、卵子、幼蟲、蛹）寫生圖七拾餘枚ハ轉寫石版圖ニシテ著者數年間悉ク實驗ニ係ルモノ加フルニ貳百五拾餘ノ經過習性ノ寫生圖ハ西洋木版ノ刻ニ附セリ

（第三）本書ノ正價金參圓也（郵稅實費二十錢）ニシテ部數三千部限リ豫約募集スル其方法左ノ如シ

（一）本年七月ヨリ八月十五日マデ入金ノモノ……金貳圓四拾錢（郵稅不要但シノ切ニ相成候）

（二）全年八月十六日ヨリ九月十五日マデ入金ノモノ金貳圓四拾錢（外ニ郵稅實費二十錢ヲ要ス）

（三）郵便爲替振込局ハ本局又ハ今川橋郵便爲替取扱所宛ノ事◎郵劵代用必ズ一割增シノ事

（第四）本書ハ當年九月二十日製本出來豫約申込ノ順序ニ送本スル事

（第五）豫約期限後ハ正價ニ復ス◎但豫約申込アルモ期日內ニ豫約規定ノ金額拂込ナキ時ハ一切無效トス

◎豫約申込所 東京市日本橋區本石町三丁目十三番地 裳華房

札幌農學校 昆蟲學專攻教授 農學士 松村松年先生著

日本昆蟲學

增補再版 菊判洋裝全一冊 正價金壹圓參拾錢 郵稅料金拾貳錢

●本書は精巧なる札幌農學校昆蟲學實驗圖及び密畫貳百三十數個挿入せり●

本書目次概略

◎昆蟲界（自第一項至第五項）◎昆蟲外部の構造（自第一項至第八項）◎昆蟲內部の構造（自第一項至第七項）◎昆蟲の知覺器（自第一項至第五項）◎昆蟲の變態（自第一項至第四項）◎昆蟲の彩色（自第一項至第七項）◎昆蟲發音器◎昆蟲と外界との關係◎昆蟲の分布◎昆蟲の化石◎昆蟲の數種◎昆蟲の分類◎第一彈尾目（自第一項至第二項）◎第二直翅目（自第一項至第七項）◎第三總翅目（第一項）◎第四擬脈翅目（自第一項至第六項）◎第五脈翅目（自第一項至第五項）◎第六毛翅目（第一項）◎第七有吻目（自第一項至第十六項）◎第八微翅目（第一項）◎第九双翅目（自第一項至第十七項）◎第十鱗翅目（自第一項至第廿七項）◎第十一鞘翅目（自第一項至第廿七項）◎第十二撚翅目（第一項）◎第十三膜翅目（自第一項至第十五項）◎歐米各國に於て出版の昆蟲學參考書及譯語索引を揭けたり

◎發行元 東京日本橋區本石町三丁目十三番地 裳華房

會員諸氏より本會へ金員を送附せらるゝに郵券代用の節は必ず一割増なることは豫て知了せら筈なるに近來往々割増なきもあり之が爲め徒に照會等に就て煩を要するのみにて御送附相成るべし此旨特に廣告候也

大日本蠶絲會

早中晩兼用ノ良種　本早生桑苗販賣

代價壱年苗千本ニ付金八圓取木苗千本ニ付金七圓
右ハ競進社々長本村九郎氏ノ特ニ撰抜セラレタル
良種ニシテ如何ナル地味ニモ良ク繁茂シ樹
性強健永年保ツヲ至テ早生ニシテ且ツ繁期ニ
至ルヲ悪ク飼育シ得ル便利ニ其ノ他ノ病害ニ
強ク故ニ此ノ種ノ桑ハ縮病ニ無比ナル敗獲ハ
多量ニシテ其ノ他ノ病害ニ罹ル恐ナシ
代價壱年苗千本ニ付金六圓取木苗千本ニ付金三圓
五十錢
以上貳種ノ外多胡早生市平伊達赤木黒鱗等製苗ス
○苗上貳種ハ弊園ニ於テ自辨ス運賃ハ御添付錢宛貳五本以上ハ無賃ニ付金十五本以上ハ五分ニ限

十文字

○弊地桑ハ内仙道本庄停車場ニ下車シ南ヘ三里○爲替ハ見埼玉郵便局ノ丹庄村大字植竹

大日本蠶絲會員　大畠和輔

健康蠶種の御披露

弊館積年製種業に精勵し本年も一層業務を擴張し健康の良種を精撰仕候間至急申込あらん事を希ふ

武州橡樹郡稻田村蠶種製造家　清陽館主

帝國蠶絲業奉賛會員
大日本蠶絲會員
武藏蠶卵種業組合員

關山五郎右衛門

●種類　●代價　●割引
寝白、又昔、青熟賀、小石丸、角又、青熟、支那種、改良かす利
各全面附壹枚壹錢三錢
月卅壹枚框製壹錢三錢
月迄ト拾枚上又ハ前金
の拂込ハ二割引多數の事
郵券ハ割引ハ大に御照會
倘壹枚割引ハ御注文
●豫約の申込ハ四歩の一を添ふ
●悪しき前金ハ返還ス
●豫約金の拂込ハ八月廿日迄に
●豫約の分ハ破約ト見ル
●豫約の分ハ申込の當時
●代價ハ武藏國ノ蠶絲業ヲ改良進歩セシメンガ爲メ著名ノ養蠶家、製種家、製絲家、養蠶教師、蠶種檢査員等ヲ聞ナク（内西ク原養蠶所卒業生ハ弱二千名一名一ヶ其人ノ性行ニ就キ或ハ煩魔鏡トナリ或ハ頑徳ニ畏怖セズ直言直筆氣焔萬丈ヲ開ケハ電光閃キ石火飛ヒ龍躍リ虎嘯ク

廣告依頼者に告ぐ

本會報（廣告依頼の諸君にして往々毎月中旬後に御申込相成候も有之不得止翌月五日までに廣告掲載致候場合も有之候に付爾後は毎月五日までに廣告原稿（料金を添）御送付相成度此段爲念廣告候也

明治三十二年三月

大日本蠶絲會

春蠶種販賣廣告

種類、又昔、小石丸、角又、青熟、支那種、改良かす利

定價　原種用框製百蛾ニ付金貳圓五拾錢
製絲用平附卵量壹匁ニ付金貳拾參錢

荷造　遠送費ハ本社ノ負擔トス

代金　拂込ハ總テ前金ニ限ル
但郡衙市町村農會各實業組合等ハ此限ニ非ス

代金　拂込所ハ株式會社百廿五銀行又ハ高島郵便電信局トス受取ハ合名會社興蠶館業務擔當社員石山學太郎ト御記入被下度候

代理店　御希望ノ御方ハ御申越次第御相談可仕候

山形縣東置賜郡屋代村
合名會社興蠶館
（内國電報和文略號コウ）

●大日本蠶絲會規則

●大日本蠶絲會品評會規則

右御希望ノ諸君ハ郵券貳錢ヲ添ヘ御申越アルベシ

大日本蠶絲會

寸鑑亭主人編纂

名蠶家月旦錄

特約價金四拾錢

明治日本名蠶家月旦錄ハ我國ノ蠶絲業ヲ改良進歩セシメンガ爲メ著名ノ養蠶家、製種家、製絲家、養蠶教師、蠶種檢査員等ヲ聞ナク（内西ク原養蠶所卒業生ハ弱二千名一名一ヶ其人ノ性行ニ就キ或ハ煩魔鏡トナリ或ハ頑徳ニ畏怖セズ直言直筆氣焔萬丈ヲ開ケハ電光閃キ石火飛ヒ龍躍リ虎嘯ク

配本錄特約ヲ以テ出版シタルモノニシテ特約者ニヨリ許アリ要望者ハ金貳拾錢投セラレ申込ノ順序ニ據リ遞送シ部數盡クレバ斷絶ス

取次販賣所　東京市日本橋區箔屋町十四番地　丸山舍

春蠶種販賣廣告

又昔

平附壹枚代金壹圓
六拾取組代金五錢●送金爲替
拂代郵便料は弊家負担
岩代郵便局
蠶種

弊家專賣の玉無蠶卵紙は十數年來苦辛慘憺して蠶自辨す
見の血統を正し獨特の飼育法に依り玉繭を見さる精純の蠶種に有之候處今年は前年に倍し多々製造致候に付御望の向は多少に拘はらす仰付あらんことを敢て愛に告白す

福島縣伊達郡粟野村

玉無蠶種販賣廣告

加藤新左衛門

●大日本蠶絲會

質問應答錄　第壹編

定價金五拾錢　會員金三拾錢　郵稅金六錢

本書は本會技藝委員諸氏が會員の質問に應答されたるもの三百三十有餘件を左記目次の如く類別編次したるものにして蠶桑に關する事項殆ね備はらざるなし御要望の向は代價と郵稅とを添へ至急申込まるべし

但會員外の要望者へは定價の二割引を以て御需めに應ずべし

大日本蠶絲會

目次

◉栽桑
- ○桑園　五件
- ○種類　九件
- ○栽培　十一件
- ○肥料　十五件
- ○桑病　十一件
- ○害獸　二十件
- ○害蟲　四件
- ○雜件　九件

◉養蠶
- ◎蟻の部　十五件
- ◎蠶種の部
- ○蠶種製造　九件
- ○種類　十四件
- ○蠶種再出　五件
- ○浸種附浴種　十六件
- ○雜件　十六件
- ◎飼育の部
- ○收蠶　六件
- ○飼育法　二十件
- ○眠起　三件
- ○給桑附貯桑刻桑　十六件
- ○上蔟　四件
- ○蠶○蛹蛾附解剖　四件
- ○蠶の健否　五件
- ◎蠶病の部
- ○微粒子病其他　十件
- ○軟化病其他　七件
- ○空頭蠶其他　二件
- ○起縮　二件
- ○死籠其他　四件
- ○節蠶　二件
- ○膿蠶其他　六件
- ○白殭蠶　四件
- ○蛆害　十四件
- ○消毒　八件
- ○雜件　四件
- ◎繭の部　十二件
- ◎蠶室蠶具の部　十三件
- ◎害物の部　四件
- ◎雜の部　九件

◉蠶絲
- ◎殺蛹貯繭の部　八件
- ◎繰絲の部　十九件
- ◎雜の部　七件

靜岡縣濱名郡蠶業學校敎諭毛利正雄先生校閲

靜岡縣四化蠶飼育法講習會編纂

四化蠶飼育法

正價二十錢　郵稅二錢

◉一、二、三、四化蠶繭寫眞及木版圖入

從來四化蠶は繭形矮小絲量少なしとの世評の爲め甚だ振はざりしが近年に及び本蠶種は長大足の進步を爲し今や繭形は夏秋蠶の大なるものに比し更に劣る所なく絲量又一舛十匁を唱ふるに至り虫質の強壯なる點は遙に夏秋蠶よりも強く特に四化目の飼育即ち八月下旬に掃立九月中旬に終るものに至りては全く落葉すべき桑葉を黄金に化するものにて殊に暑氣も秋蠶期の如く甚しからずして飼育者も愉快に事を行ふを得るより一昨年頃より四化蠶の流行は頗る盛大なるに至りしは誠に斯業の爲め喜ぶべきなり本書は四化蠶に就き其第一化より四化に至る飼育方法は勿論各化蠶種の製造法、保護法、貯藏法は言ふに及ばず本蠶に關する經濟に至る迄一々擧げて漏さず說明せる眞書なり四化蠶に意ある諸君は速に一本を購讀せられて本蠶の如何なるものなるやを究め豐美の結果を得られんことを希望す

○送金爲替は東京本局振込切手代用一割增の事

發兌元　東京市日本橋區若屋町十四番地　丸山舍

農界第一の大雜誌!!!　每月一回廿日發行

THE AGRICULTURAL JOURNAL

農事雜報

第十三號の目次　大要

口繪、洋種農用貨車用具馬寫眞圖
曾禰農商務大臣に質す
鑛毒問題善後策……石坂農學士
土質と燐肥の效驗……安藤農學士
林檎酒醸造に就て……奥村農學士
さつまいも用法……菅井雄
本邦農事の沿革……玉利農學博士
蠶業家に注意す……針塚農學士
養蠶の大要(問答)……松永技師
秋蠶飼育の要件……河原農學士
蠶兒の小氣門に就て……土田都止雄
牛畜改良に就て……ヤンソン博士
佛國種食用兎の新話
獸肉檢査の便法……高橋大軍醫
養蜂(みつばち)要話
害虫調査に就て……佐々木理學博士
(すいむし)發生の狀況……東海支場
二宮先生守分論……池田謙藏
米國農事試驗場近況……森農學士
水の話……村松法學士
福島縣安積開墾談……西岡雄說
農事東西觀察談(上)……十文字信介

●質問應答に有益の記事ある如例一冊八錢郵稅一錢半年分六冊前金五十錢一年分一圓●郵券一割增

再版出來第一號ゟ各號持合あり乞御注文

發行所　東京神田區須田町大通　農事雜報社

農事雜報合本

第一號より十二冊合綴總目錄あり

◉洋裝總クロース金字入美本總紙數千二百餘頁
◉一部一圓◉小包郵送料十里內七錢百里內十二錢百里外廿四錢◉郵券代用一割增◉代金引換諸す

新刊　通俗養蠶鑑

全一冊　定價一冊金廿錢郵稅四錢郵券代用一割增

農商務省農事試驗場長農學博士澤野淳君序
同蠶業講習所講師農學士河原次郎君著

蠶業に關する書少からずと雖も多くは高尙に失し或は複雜に過ぎ價格亦廉ならざる等余輩の遺憾とせし所也此書は此弊を除き極て平易に且最安價ならしめ實用を主とせる故に四號字を用ひ一々ふり假名を附し挿畫を加へ蠶兒飼育法は勿論蠶室具等より製種に至る迄養蠶に關する事項を網羅詳說せり

再版　通俗肥料論

全一冊　定價一冊金廿錢郵稅四錢郵券代用一割增

農科大學敎授農學博士米國理學士玉利喜造君閱訂
文部省實業敎育局農學士針塚長太郎君編述

此書材料を帝國農科大學試驗場成蹟に取り農業經濟の大本たる肥料各般の事を丁寧親切に說明せる新著にして肥料各種の製法より施用法及效能等に至る迄通俗平易に詳說せり農事改良を講ずる農家は此有益安價の新農書を座右に備へられんことを

發兌　東京神田須田町大通　十文字商會出版部

蠶業奬勵資金募集謹告

故兒玉實詮氏は本邦蠶絲業の將來に就き大に經營企圖する所ありしが不幸にして二豎の侵す所となり去明治三十年六月十六日空しく大志を齎して遽逝せり悼惜焉ぞ堪んぬ嗟乎抑と氏は資性過敏斯業の改良發達に心神を勞するの過大にして遂に身躰の健康を害ひ素志の一半だも果さざりしと雖も亦其效の見るべきもの多し同志者玆に聊か氏の靈魂を慰めんが爲め冷く有志諸君に金員の義捐を仰ぎ之を大日本蠶絲會に寄托し之れより生ずる利子を以て同會蠶業奬勵の資に充て以て氏の効績を不朽に傳へんとす

蓋くは四方有志の諸彦發起人等が微意の存する所を洞察し幸に此舉を贊助せられ數の多少に關せず寄送あらんことを希望の至りに堪へざるなり

明治三十二年八月

發起者

毛呂正容　伊藤精一　渡邊義武　植田富平
御法川直三郎　高橋元助　山本竹藏　今本慶次郎
松田昌德　增田由之　波多野鶴吉　町田穆
勝田重太郎　吉池慶正　稲本亮　石塚萬之助
丹羽寛次郎　藤木長　森山實五郎　鈴木貞太郎

賛成者

岡毅　紫藤章　田原休之丞　其他
練木喜三　松永伍作　吉田健次郎
高橋信貞　本多岩次郎　二宮鶴松

追て金員御寄贈の節は東京市神田區錦町三丁目一番地大日本蠶絲會池田藤宛にて御送付を乞ふ